

82
712

花の家主人編

家庭園藝
草花の栽培

82-1712



家庭园艺
花卉栽培

緒言

草花は其種類多くありまして之を花壇に植へ又鉢植にして培養
しますれば各々其時節になりまして思ひ／＼の粧ひを凝し
得意の愛嬌を呈して四季折々のながめとなり尙其上に植物の成
長する工合や種々の事に就いて學理的の知識をしらず／＼の
に受け注意力を増す様になりますのみならず之を培ふには自然
戶外で致します故に何時の間にか新鮮なる空氣と無邪氣なる運
動と清潔なる娛樂とは吾々の健康を益する媒介となります古人
も健康なる精神は健康なる身體に宿ると申ました様に前庭後園
へ出て草木の世話をするなどの事は申までもなく身體の健康を
來させます身體が健康になりますれば隨て精神が爽かに且健全

4. 6. 24

になります精神の健康が是即ち實に家庭和樂の原因であります
 嬉々の笑ひ聲は決して不健康の身體よりは出ません況んや庭前
 の一枝を折りて無邪氣の小兒を慰め壇垣の一花を切りて神佛に
 供へ老嫗の喜びを買ひ然して天然の美を眺め其芳を愛んとすれ
 ば之に對する手當の法を知らなければなりません依て茲に其培
 養の大略と草花中重立たる種類を撰み畧解をつけて皆さんの參
 考に供します。

明治四十四年五月

編者しるす

家庭園藝 草花の栽培

目次

一 總論	一頁
一 土壤の事	二頁
一 種蒔の事	四頁
箱蒔	六頁
鉢蒔	七頁
外皮厚種の蒔き方	八頁
一 花壇の事	一〇頁
一 植換の事	一二頁
一 澆水の事	一五頁

- 一 肥料の事……………一八頁
- 一 栽培上の事……………二二頁
- 一 草花の種類(圖入)……………二四頁
- 一 園藝用具(圖入)……………四九頁

附 録

- スミレの栽培……………五五頁
- 日本スミレ……………五五頁
- 香堇菜(ニホヒスミレ)……………六七頁
- ミイロスミレ(パンシイ)の種類……………八三頁

目次終

家庭園藝 草花の栽培

花の家主編

總論

草花の種類は千紫萬紅ありまして春蒔にするものと秋蒔にするものと又春秋何れに蒔ても宜いものがありますけれども其内には陽地又は陰地に適するもの植換を嫌もの或は鐘草の様に今年の春蒔も來年の夏でなければ花を開かない者があります又香連理草「ネモフィラ」シレチ「三色堇」の様に秋種を蒔ば強壯に生育し然して翌年になり多くの枝に花もたんと開て殊の外美麗ですが其を春に蒔ますと只々蔓や莖が延るばかりで花も少しばかりか開

總論

一

さまざまゆへに其等の性質を少く研究してやりますれば誰にも
出来ず、依て左に大畧の事を申上ます。

土壤の事

草花を栽培するに就て、一番大切なのは土壤であります、勿論此土
壤とても、其處に植る植物の種類に依て、夫々違つて居りますが、
そう云ふ細かい事は多年の経験に依て分るので、栽培の方法とか
氣候とか種々の場合に依て、中々一様には云れんものでありま
すから、只一般に亘つた處の事を御話します、皆様御承知の通り、植
物は根から自分の身體に必要な養分を吸取て、葉て其を消化させ、
植物の體質と同じ様な性質のものに化して、夫を以て次第に成長
して行くものであります。

夫て根から吸取ものと云ば、いろ／＼ありますが、どんなものでも
水に溶解なければ、自由にそれを吸取事ができません、如何に多く
の肥料があつても、夫の溶る丈の水分がない時には、何にもならな
いのでありますから、土地には適當の水分がなくはなりません、
夫て水分を適當に保たしめるには、土をよく細に碎く事て、極く細
く軟かにしたる土地は、毛細管引力と云ふ働きに依て、水分をよい
工合に保つことができるので、此作用は土が細くされて土と土と
の間に、多くの空隙を造る様になるから、其間に水を含む事が出来
る様になるのであります、夫故土を細くする事は、植物の根が成長
する必要であるばかりでなく、水分を保たせる爲にも必要なるの
であります。

種蒔の事

土壤の事があわかりになれば次には種蒔の事です。さて種を蒔ますには、春彼岸前後成るべく南の方に向ひ、地面の餘り乾燥ない所を撰びまして、其所に巾三尺長さ適宜の地をしきつて種を蒔く場所即苗床を拵らへ、よく耕して平地より凡五寸程の高に土を盛上げ、其周囲の崩ない様に、板又は瓦にて圍ひ、表土一二寸は竹又は鐵線の篩にて透し、種を傷める様な土塊をとりのぞき、之に又塵ため等の肥土を二三分篩ひかけ地上を均し、其上に種をばら蒔にするのです。若し床の土が餘り乾き過てゐるやうであれば、適量の水を如露にてかけ、然る後に蒔の ですが、其種子の微細ものは、砂又は米糠などの中へまぜ、容量を増て其と共に蒔付る時は、萬遍なく一帯



に蒔く事が出來ます。又軽い種で風の爲に飛やうな心配があれば少し土を混て掌で擦て蒔は、決して飛ぶ様な事はありませぬ。夫から種を蒔付たる後は、其大小に依まして、大なるは二三分沃土を篩かけ、松葉牡丹、ケシ、虞美人草の様な小さい種は、其上を薄い板にて軽く押付置は宜い。多く素人方が種を蒔て失敗するのは、其深が其種子に適しないのが大原因の様に思ひます。通常種子の蒔方は、其大さだけの深さにするものと稱へられ、即ち種子の大さが一分あるものなら、土の中に一分埋るやうに蒔のが最も安全の方法として稱られて居ます。夫から尙乾燥ない様に、細く刻んだ藁又は水苔の類を其上にふりかけ、目の細い如露又は噴霧器で水を灌のてす。最も種蒔場の狭き時は、新聞紙を覆ひ、四方に木又は石を載置、夕方になりて之を採放し、翌朝地面の未だ乾燥ない中に、又之を再びし、斯

様にして注意しますれば降雨或は灌水の時には種を動して洗出す心配はありませんで早のは三四日晚くとも十四五日経てば芽を出します然して發芽後餘に苗のこんでをる所は間引てやるが宜い併し撒蒔にして苗床の土がいつも少し乾てをる様にしておけば大抵のものは夫れ程間引く必要はありません。

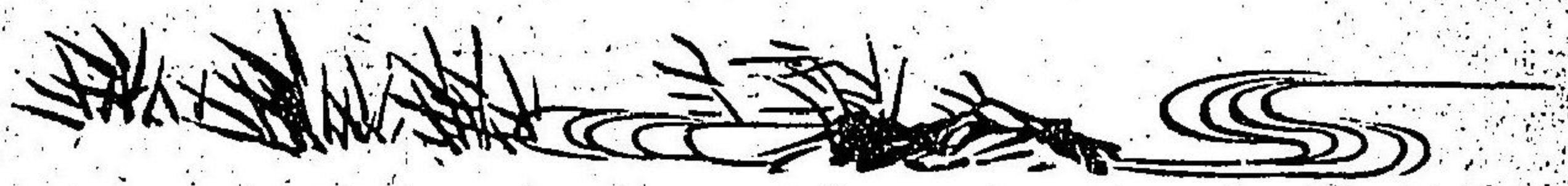
箱蒔は少し計の種を蒔とき或は普通の蒔方では芽出の良ないものを蒔のに用ゆるもので其箱は大小勝手てあります最も簡易なのは密柑箱を二ツに切て良く釘付にして其底に小孔をあけ其中に鉢のかけや瓦片を布き其上へ少し粗土を入れ最後に細い肥土を盛て其表面を均し種を蒔のであります然して水を灌る場合には鹽へ水を吸み其内へ箱の下の方を容て置ば底の方から自然と水分を吸上て箱の内は一様に濕ますから種の爲にもよく又

種が灌水の爲に叩きだされ或は隣の種と交る事などの心配なく實に安全の方法であります。

鉢蒔は夫々性質の異つたもの即ち天竺牡丹、カンナなどの様な球根類、其他花菱草、牡丹、罌粟、虞美人草の様な生長中、植換を好ないもの、或は植換すると害を蒙り易いものは箱蒔にするよりも鉢蒔の蒔のが安全でありますして生長の後鉢を抜き其儘移植することもある出来す、さて鉢蒔方法は先づ鉢を取て底に鉢の片又は介殼を入れて、夫から篩土を八分目程入れ、尙其上に四五分許り肥土のふるひたるを盛り、鉢の端を以て少く左右に動し、土を落着せて種を蒔、其上に種の見へない位に篩土を掛け、夫から如露にて少く水を灌るのであります、此用土に就ては種々六ヶしい説をする人もあります、素人が慰がてらの園藝には、左まで用土を吟味すること

は要ません庭の土でも畑の土でも只細にすれば宜い然して此鉢蒔は勝手の場合へ移事が出来すから雨風をよけ又日光に當る事もでき乾燥時に上より水を灌ずに桶に水を入れて其中に鉢を半分浸れば鉢の底にある穴より水を吸ますから少と種子を動かさないで水を施すことが出来ます。

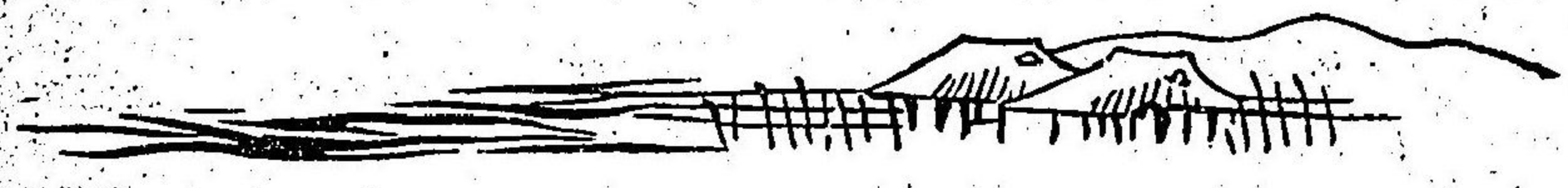
外皮の厚種の蒔方 草花の内て源氏夕顔又月華夜會草夜顔の名もあり曇景、カンナの様は石よりも硬と思はれます程のものは普通の蒔方では容易に發芽しませんから此様の種子を蒔には、外皮の兩方を其心に達しない様に砥石で磨て鉢にまき其上に硝子を覆ひ成るべく日光のよく當る處へ出ておき餘り乾燥ない様にしますと大抵芽を出ますが時として芽がてしも葉に種の皮が被つていて其儘で腐て終ることがありますから此邊はよく注意なさい



まし又是等の種を三四日湯に浸して蒔はよいと申ますが夫だけでは充分に皆々發芽しませんなほ蓮の實も硬から右様にして泥水の中へ蒔なさいまし。

以上春種を蒔には彼岸前後とありますから四月五月になつたらもう蒔のが遅いだらうと思つて來年まで待つ方もないとは限りませんが春蒔草花の中には五月の末に蒔ても立派に花が咲はかりでなく却て秋遅く迄花を見せ夫て栽培の容易のものがあるか

- ら次に其等の名を一寸記してみませう。
- | | | | | | | |
|-----|-------|-----|------|-----|-------|-----|
| 朝がほ | 百日草 | 翠菊 | 金雞草 | 鳳仙花 | 雁來紅 | コスモ |
| ス | 藤菊 | 千日紅 | 金盞花 | 風船草 | 日々草 | 木犀草 |
| 庭 | 石菖 | 金蓮花 | 貝細工草 | 鶏頭花 | アライサム | 花菱草 |
| | 美女ナゲシ | | | | | |

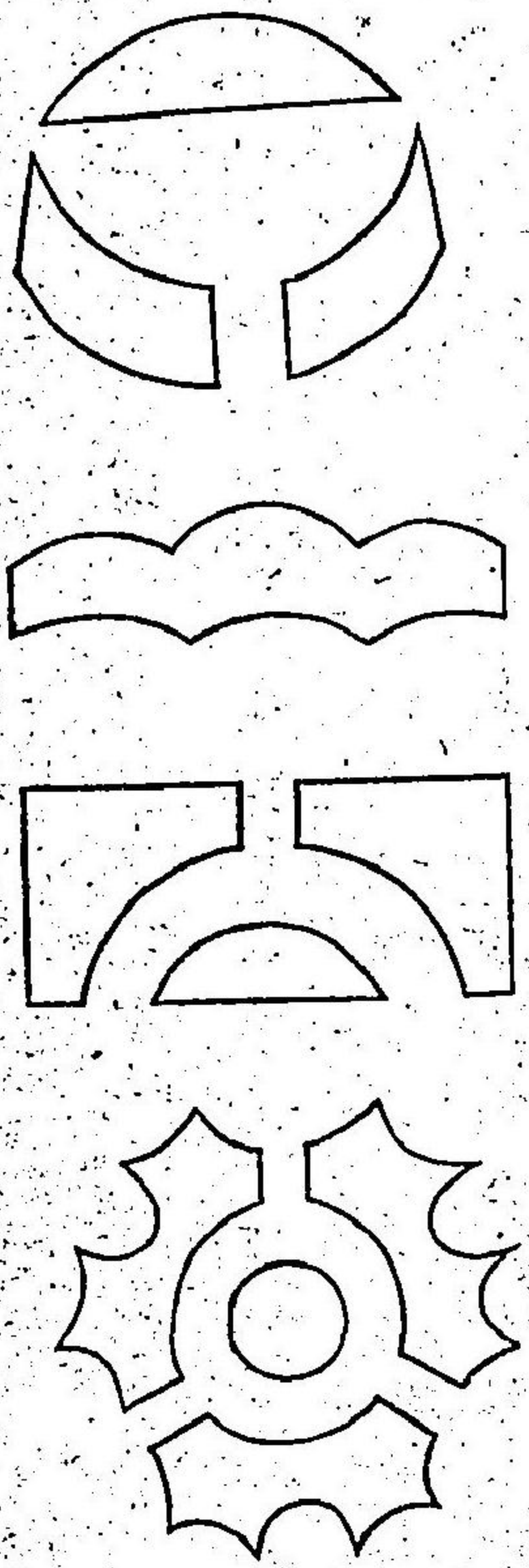


此外に未だ澤山ありませうから急がすにお蒔なさい、そして美麗花の咲のを、ね樂みなさいまし。

又秋蒔のものは、九月下旬から十月上旬まで、なるべく暖かい場所にて、北の方に家屋、立樹等がありまして、寒い風を防ぐ所を撰んで、春月種をまく方法と同じ手續にて種を蒔き、芽を出してから雑草を抜きとり、霜の降る時分になれば、南の方をあげ、東、西北の三方を塞ぐ様に斜に霜よけを拵へ、夫から後、非常に乾燥たる時の外は、水を灌てはいけません、殊に冬になりまして、水を灌ると地面が凍りまして、小苗は浮上げらるゝ計りてはありませぬ、弱い苗は凍て枯死てしましますから、御注意なさい。

花壇の事

花壇を拵へるには、日當りの好い南向きの場所を撰で、能く耕して、苗床の様に肥土の篩たのを入れ、土面を平坦にして、種々の草花苗を植へるので、御承知の通り、花壇は春から夏、夏から秋と云ふ様に、段々に苗を植へ、花の咲間が永して、地面の肥料分を吸とるこゝとが多くありますから、常に肥料を施すことに注意なさい、然して花壇の拵方は、大抵長方形ですが、地所のある處るでは左圖の様に色々の形に拵へて、草花の苗を植へるのも妙です、又其周圍には、竹や木、其



花壇の事

他煉瓦などを用ゐて、土の崩れない様にしますが、若し是等がない時分には矮生一年草及び宿根草を植るのが便利ですが、けれども最も趣きのあるは、蔓無の四季成草苜蓿です。是は四季實をとる樂みがある計りてなく、其葉は常緑で枯凋ことなく、間々に點々白の小さい花が咲いて、人目を娛ましめますから、花壇の縁植には最も適當いたします。

植換の事

草花の植換は、發芽の後、他の苗床に一度植出し、培養して後、花壇又は鉢に本植するのでありますが、其種類に依りて注意しなくてはならないのがあります。其は夏の暑を恐れ、又乾燥を恐るゝもの、或は微菌に襲はれ易いもの等て有ります。殊に香堇の如きは冬の寒

のには至極丈夫であります。夏の炎天には極く弱いものであります。すから、春植換る時は成べく半日は日かげになる地がよしい。凡て何れの草花でも、植換へは夕景か又は曇たる日を撰でするが宜い。草花類は根付の早い代りに凋むのも早くあります。又植換の節、苗床が乾燥する時は、前日の夕方に充分水をかけて置いて、夫から着手するのです。

又鉢にある草花苗を乾燥たる儘にて鉢から出し、花壇に植時は、水の濕にくい者にして、自然害がありますから、鉢より取出す前に澤山水をかけ、一晚おき翌朝になつて充分濕つた處を取出して、植付をなさいまし。夫から植換を終て水を灌ぬと、夫が爲に根の伸長發達を妨ますから、植換をした當時は、根の吸收力が弱いだけ、夫だけ強く、葉から蒸發します。ので、人爲によつて水分を供給と、草木は直

様枯てしまします、其故に植換の後は忘れぬ様に水を灌ねばなりません。

苗の距離は、一年草又は宿根草とによりて違があります、一年草は大抵牛長の早ものですから、肥料も原肥の外に、早くきゝめものを施て、其生長を助なければならぬ計てはありませぬ、其植換も成べく早くしなければなりません、一年草の多くは早く繁て多くの地面を要するものであります。

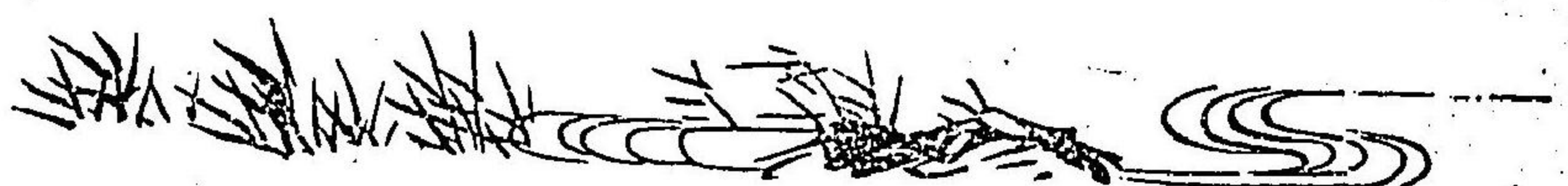
又石竹、ナデシコ類は大抵三年又は四年目毎に、舊株を捨て新規の株に代なければなりません、若し此手續をしない時は残らず枯てしまふことがあります、此種類は割合に地面を要しません、宿根草即ちニホヒスミレ、ヒナギク、櫻草、萩、斗菜、球根類は其成長も餘り早くありませんから、肥料も早く効ものを施さなくも宜く、且

地面も石竹など、同様に澤山は要しません。

凡て植物は、空氣の流通あしく、又は夏中氣候の不順なる時は、蟲の害又は黴の害にかゝり易いものでありますから、何れの草花苗でも、近く植るよりは、其距離を遠くする方が宜しく、又苗を植換てから、種類に依て違ますが、早のは五六日目より成長を始ますから、時々薄い水肥を施し、又鉢植にしたるものは、乾燥たる時に水を與へ、蔓生のもの或は莖の弱くして頭を垂れる種類には、竹等を立て、香堇、香ナデシコの様、に、暑を恐れるものは、日除をするか又は日蔭に移して、養はなければなりません。

灌水の事

灌水は、草花栽培上最も必要にしまして、其水は雨水か河水が一番



ですが、若し是等の水がない時は、堀井戸の水を酌み溜て、半日以上も日光の當る所へ出して置いて、温氣を含ませしめた後に使用するのてす。然して水を灌るには、必ず如露の孔の細いのをを用ゐて、平均に徐に灌ぐ様になさい。決してヒシヤクや其他のものにて、亂暴にやつてはいけません。又草花の種類や時候の加減に依まして、多少の相違は有ますけれども、盆栽類は大抵左の法に依て、ねやりなさいまし。

さて、春期は正午に一度、夏期は午前九時から十時迄に一度、又午後三四時の頃に一度、都合二回、暑中の極暑い時は午前八時に一度、正午に一度、午後四時に一度、都合三回、中秋は夏期と同じく、又秋晚くなりてからは、春期と同じ位の度数を以て、莖や葉にかゝらない様に鉢から溢れる迄、充分に水を灌のてす。又曇天ときは、鉢の中の濕

てゐるか、乾いてゐるかを見て、灌水の加減をするが肝要です。

又花壇に植付てあるもので、久しく天氣の續く事があり、土地の乾燥場合には、折々溜置の水を充分にかけて、水の缺乏に苦む事のない様に注意なさいまし。併し如何に植物の發芽や成長に水分が必要だとは云へ、其度を過す時は地中の空氣の流通を妨げて、根は窒息してしまします。鉢植にした植物が、原因も分らずに何時の間にか消てしまふ様な時には、餘り水が過ぎたるからであり、土の中にあるべき根が、地上に出でくる様な場合には、確に水が過ぎて、地中で空氣の流通を妨げられる爲であると云ふ事が分ります。夫から今一つは發芽の時に、水分が多すぎると、太陽の熱は充分に當つて居ても、水分が蒸發する爲に、芽の發達に必要な温度が皆とられてしまひ、從て芽が充分に成長する事が出来なくなり、ます。

肥料の事

凡て植物は何に限らず地中より養分を吸収して成長するものでありますから、數歩の花園にても草花の美麗なるを愛するには、矢張り肥料を施さなくてははいけません。併し肥料と申すと、直に下肥を連想するので、中には折角ヤローと思つた園藝も、肥料をやる一段になり、自分は勿論隣り近所の思感も如何と心配する人もあります。強ち下肥計が肥料ではありません。今日では化學肥料と云つて、肥料としては寧ろ奇麗で、しかも臭氣がなくして、取扱上便利の肥料があります。下肥の様な惡臭を發するものは、害虫をよび寄る計りてなく、第一園地の趣味を殺ぎますものです。成べく臭氣のない、肥料を撰ぶやうになさいまし。其か抑家庭園藝の主旨だと思ひま

す。然して其肥料は何かと云ふに、園藝肥料や過燐酸肥料が宜しうござります。此園藝肥料は、歐米諸國にては、素人にも黑人にも要られ、原名を「ブランド、フート」即ち植物の食料と稱へ、窒素、燐酸、加里の三要素を適當に配合たるものにて、濃厚で清淨で臭ひなく、そして奏効の迅速い、尤もよい肥料であります。之を施せば花をして艶麗、馥郁、果實をして甘美、豊大ならしむること、實に驚くべきものであります。

過燐酸肥料は、是迄の肥料中に乏しい處の燐酸分を供給するのであるからして、草花類の様に種子が細かく、然も其成長するまでに、手数が掛り、且花色の艶麗、幹莖の強剛性を助くるのには、特に効能があります。

油槽は、昔から一般に使用してをる肥料で、粉にしたるを水に溶して

腐敗又は其儘施します此肥料は窒素即ち俗に葉肥と云ふを含んでをることが多く速く効がある計りてなく取扱上便利であるからして凡ての草花類には此上もない好肥料であります。乾鱈は窒素葉肥と磷酸實肥に富んでをるもので之を施すには粉末となし或は其儘にてやりますが粉末にて用ゆるにも他の品を混ないで其儘用ゆる時と草木の灰を混て用ゆる時があります又之を水に入れて腐らし用ゆる時は速く効があります其他臺所の流し水米洗水等を腐らし薄して十日目乃至十五日目位に一回づゝやりますれば大に効能があります其種類に依て一様でありませんから成育の状態に應じて適宜に之を用ゆるが宜しい。以上の如き肥料をやるに付ては如何なる注意がいるかと云ふに土には一度にやる肥料でも砂土には何度でも分てやらなければ

は皆流失しまします夫から成長期の長い者にはなるべく分解の晩ものを施が宜いが人糞の様な分解の早いものを施ならば其發育中に何度も少しづゝ分けて施なければなりません凡て植物が養分を吸収時は鬚根と云ふ細い根の先から吸収のでありますから肥料をやる時には此注意を忘れないで餘り根際に施ないやうになさいませんと唯に益がないばかりでなく時には根を損するともありますそして植物の根と云ふものは葉や莖が空氣中に於て四方に廣がると共に矢張地中に於ても四方に廣るのであるから葉や莖の廣がつて居る廣さの範圍内には根も廣がつて居ると思つてゐれば餘り間違ないのであります。

栽培上の事

凡て草花を栽培しますには最初苗床の灌水、間引除草、此三つを怠らたつてはいけません、殊に水を灌ることが肝要であります、又發芽した嫩芽は、日光の爲に枯る様なことはありませんが、雨が降續くと、初に被せたる水筈などへ澤山の水分を含んで、之が爲に苗の腐ることがありますから、其等は氣をおつけなさい。

又種類により、苗が或度合まで伸ました時に、心芽を摘むものがあります、若し心を摘ずに其儘にして置ますと、枝が出ないで一本立になつて、見悪くなります、併し矮性種であるとか、又は石竹、カーチーシヨンの様なものは、心芽を摘ますと折角の開花期を誤ることがありますから、此等のことは苗を仕立てる時に、よく注意なさい。

又苗を鉢に植る時古い鉢を使用します場合に、若も其内に古い土が附てると、時として害虫の卵や、雑草の種が混入居り、新規に植た草

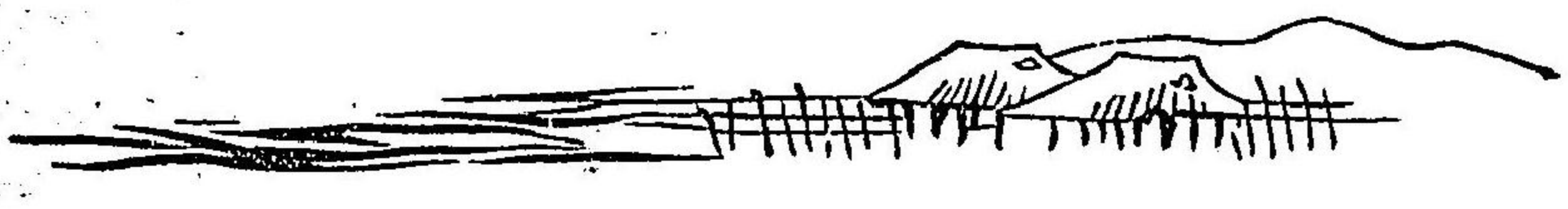
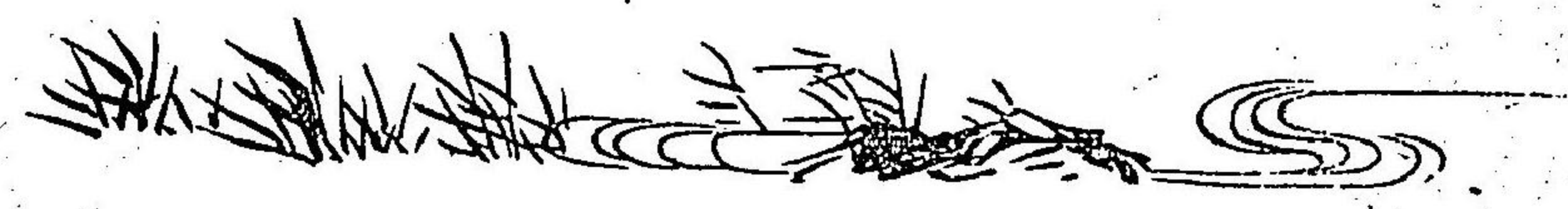
花の苗に害を與ふることがありますから、必ず鉢の内外をよく洗つて土を落し、成べく日光の當らない所で乾て後、用ゆるが肝要です。

尙花の咲終りたるものは、勉めて摘去ることが宜しく、又種子を探には、早咲のものを残して置いて、其九分通り熟した時に摘取り、二三日日光に乾袋に入れて、空氣流通の宜しい場所に貯へねく様になさいまし。

右の通りに致しますと、種蒔と云ひ、花壇の拵へ方と云ひ、植換と云ひ、中々六ヶしき様に思ふ方もありませうが、一度手を下して、やつて御覽なさい、何事も案るより生が易で、どうさなく美麗の花をながめる様になります、尙れ分りにならない事は、質問なさればおへんじ致します。

草花の種類

- 一 伊勢ナデシコ
秋蒔の宿根草にして其花の大いのと色の濃艶なるのは他のナデシコに優てぞり高七八寸にて鉢植によろし。
- 一 ロベリヤ
最も愛らしい草で六月初旬から青色の中心に白色を點じたる小な花が集つて開き永く咲つゞきます高さ四五寸で秋蒔です。
- 一 ハルシヤ菊
一年草にして夏月高三尺位に伸び金鶏草に似る深黄の花を開きます誠に栽培し易い花で誰にでもできます。
- 一 ハイトリナデシコ



- 一 小町草と申し一年草で春秋共に蒔付て宜し夏秋の際高さ一尺五六寸に成長し五瓣淡紅の小花が澤山咲て切花によろし。
- 一 十様錦
鶏頭の一種にして夏より秋にかけ高さ二三尺から一丈位になり其葉に紅、黄、白、紫等を染なし實に美麗です。
- 一 花菱草
高尚なる一年草で紋所の花菱そのまゝ艶麗な花で四瓣の大輪にして黄、白の二種ありまして春蒔で移植はよくありません。
- 一 花傘草
一年草で高さ五六寸から一尺計になり夏紅、白の芳香ある花を開き眞に花傘の様に美麗です春秋共に蒔てよろし。
- 一 ハナマメ

蔓生にして莖葉ともに大きく春蒔と六月初旬から深紅又は咲分の花を攢り開き九月まで咲續きます其花極めて艶麗にして觀賞するによろしく子粒も大きく煮て食べられます。

一 庭石菖

小なる宿根草で春秋ともに蒔てよろし春末愛しき淡紫色五瓣の小花が咲き盆栽によろし。

一 日々草

春蒔の一年草にして夏月二尺許になり毎朝花を開いて夕方散ます故に名たので赤白の二種あります。

一 ニホヒスミレ

小宿根草で秋蒔と翌年になり佳香のある花を開きます一重八重紫白等種々あります。

一 鳳仙花

春蒔の一年草で西洋では多く花束にして珍重します夏高さ一尺餘になつて赤白紫絞等にて一重又は八重の美しい花を開きます。

一 小向日葵

向日葵に似たる一年草にして黄色の花を開き枝多くして花期永く夏秋の切花に宜し。

一 紅花菜

愛らしい一年草で六月から十月頃まで常に開花します其形總に似て鮮紅又は黄色の二種ありて切花によろし春蒔です。

一 トレニヤ

春秋ともに種を蒔く一年草で三個の青點と黄色の中心のある

花が集つて六月から秋の末まで咲ます高さは六七寸です。

一 蔦蘿

愛しき蔓草で夏小さい星形で深紅又は白の花を日中に開きま
す弱き一年草です。

一 含羞草

此草は實に面白い働を以て居る一年草で一寸でも此草に觸る
ものがあると直ちに萎まれて暫くすると又元の通りに開いて
來ます。

一 紫茉莉

弱い宿根草で春種を蒔ば夏から秋にかけ佳麗にして芳香ある
紅黄、白、綾等の花が夕方から澤山咲ます

一 勿忘草



洋名を「ホルケットミィナット」と云ふ小宿根草で秋蒔にすると
春早く星形で緑色の愛らしき小花を簇り開き此頃大に流行し
て濕り地に適當します。

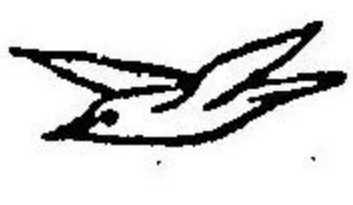
一 カナリヤ草

美麗なる蔓生の一年草で春秋ともに蒔てよろし夏秋の間鮮黄
色の花を開きます其形が金鳥雀に似て居るから此名があるの
です。

一 貝細工草

丈夫なる一年草で春秋ともに種を蒔き其花は瓣硬くして貝殻
細工の菊の様で夏日帽子などに挿ておいても中々萎みません
一重と八重とあり色に黄と白があります。

一 カンナ(美人蕉)



宿根草で其葉大きくして厚く光澤があり莖頭に黄濃紅、淡紅等の
艶美なる大花を開きます種子は春蒔です但し冬は霜除をなさ
い。

一 カッコアザミ

一年草で春秋ともに蒔てよろし夏秋のころ高さ二尺許になり
眉掃に似た鮮青小花を開きます又白花のもあります。

一 ダンギク

春彼岸に種を蒔ときは夏の末になり葉腋から枝を出し多く分
れて紫又は白の小花が簇つて開きます段咲にして切花による
し。

一 曇景

宿根草で其葉は「カンナ」に似て少し硬く夏二三尺になり梢頭に

深赤で穂の様な花が開きます鉢植又は花壇に植るもよろし。

一 蜀葵

二年草にして春種を蒔と翌年五六尺に伸び梅雨前葉の間毎に
一ツづゝ花を附ます其故に梅雨葵とも云ます一重、八重、赤、白、覆
輪等の種類があります。

一 ツクバ子草

弱一年草で日向を好まず春秋共に蒔てよろし夏から霜の降ま
で紅、白、紫、絞り等美麗の花を開きます。

一 月見草

日中は開花することなく大陽が西の山に沈んで黄昏の頃から
清涼愛すべき四瓣黄色の花を開きます殊に月の下に於ては別段
の美観を呈します。

一 ラドベッキヤ

宿根草で春秋共に蒔てよろし春から夏にかけて鮮黄色で美麗なる花瓣が黒色の花心をとりまいて開き切花によるし。

一 クラキヤア

極愛しき一年草で秋蒔になすときは翌年の夏になり一重八重、いろくゝの美麗なる花を開きます。

一 藤菊

春蒔の一年草で夏になり一尺許りに成長して多く枝を分ち黄色又は紅黄色で萬壽菊に似たる小花を開きます。

一 矢車草

獨逸の國花で春秋共に蒔てよろし夏秋の間十數個の花辦が恰も矢車狀に咲てさまくゝの色異りがあります切花によるし。



一 萬壽菊

一年草で春蒔にすると夏になり二尺許りに生長し鮮黄又は樺色にて眉掃に似たる花を開きます最も其花葉には匂が有ますが花壇に植て眺るには夫程でありません。

一 松葉牡丹

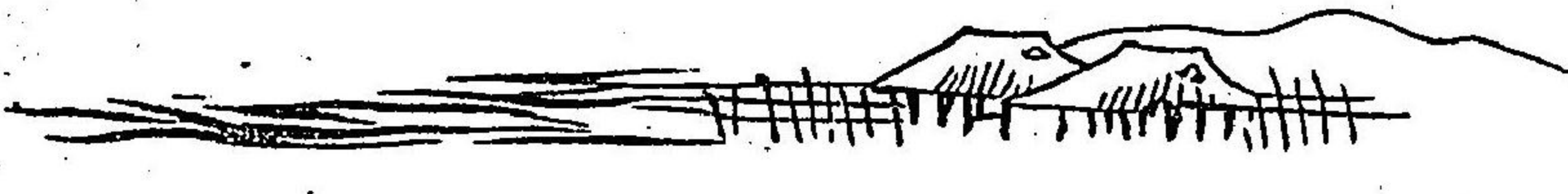
丈夫なる小さな草で春早く蒔ば夏から秋にかけて紅白黄、絞、樺色など種々の花を開き一重八重の兩様ありて極めて美麗です。

一 鶏頭花

一年草で夏から秋にかけて梢端に圓形又は扁平にてまるで鶏冠の様な奇形花冠を出します赤黄等いろくゝありて春蒔です。

一 罌子粟

一年草で秋彼岸頃花壇又は鉢に直蒔し後一寸程に成長のとき



間引翌春二三尺になつて梢頭に大なる花を開きます一重八重、白赤、桃色等の種類があつて皆美しい色です。

一 風船カッラ

蔓生の一年草で夏月蔓が段々延て小白花を開きます花が咲て後に奇妙の丸い實が結び恰て風船の様であります。

一 コスモス

春蒔の一年草で秋になり高さ五六尺に達し多く枝を分ち白赤、桃色の優美なる花を開きます其秋風に揺々する有様は實に愛らしいものです。

一 コリンシア

宿根草で春種を蒔ば夏月一尺餘に伸び花梗を廻りて美麗なる開のいろゝ花をさします。

一 夜落金錢

昔から日本にある一年草で春蒔ば夏二三尺になり正午に黄色の花を開き夜になつて散ります。

一 小判草

小宿根草で一に俵ムギと云ひ是は美麗の花が咲のでなく夏になつて細莖が澤山出て五六寸になり其梢に小判形の穂を垂るのです春蒔て鉢植によろし。

一 天人菊

一年草で春蒔にすれば夏になり一尺餘の莖を澤山出し黄色の花を開きます一重八重があつて秋まで咲つゞきます。

一 天竺牡丹

球根草で夏月三四尺にのび赤、黄、鮮紅、絞等の花を開きます一重八

重其他改良の新種類が澤山あります。

一 赤花亞麻

愛らしき一年草で其形普通の亞麻に似て花は大きく光澤ありて頗る美麗で鉢植によろし種は四月頃蒔てよろし。

一 牽牛花

人々の多く愛する蔓草で夏から秋にかけていろ／＼の花を開きます種は四五月頃に蒔てよろし。

一 紫羅爛花

二年草で赤白の二種ありて沃土へ植る時は夏から秋にかけて七八寸に成長して美麗の花を開きます種は春又は秋に蒔てよろし。

一 アライサム



一年草で秋蒔にすれば春早から秋の末迄芳香ある純白の小花を簇開ます花壇の縁植によろし又種子は春蒔てもよろし。

一 桔梗撫子

愛らしき一年草で秋蒔にすれば翌年の夏になり紅、白、黄、桃色等五瓣の花を開きます一種星形のは殊にうつくしく高は一尺位です。

一 柳穿魚

弱い宿根草で春秋共に種を蒔てよろし夏月名の如く錦魚の様な奇妙なる形の花を開きます其色に紅、白、黄、綾など園藝上の品類頗る多く歐米人は殊に是を愛します。

一 狭竹草

丈夫なる宿根草で夏二三尺に伸び深紅又は純白其他各色の花



が梢に簇り開いて美麗です、よきにほひがあつて切花によろし。

一金鶏草

一年草で春秋共に種を蒔てよろし夏秋の間黄や樺色の陽氣な花が開き輕風に搖所は丁度胡蝶の群が戯れてある様です。

一金蓮花

一年草で蔓生と矮生と二種あり其葉は蓮に似て花は奇形にして赤黄樺色絞りがあり夏の初より開き其實は香料に用ゐます。

一金盞草

一年草で一名を長春花と云ひ夏の初より秋の末に至る迄紅黄又淡黄の花を開きます一重八重ありて切花によろし種は春秋共に蒔てよろし丈は一尺許です。

一夕化粧

月見草の白花を云ふのですが黄色のものに比べて一体に優しく夏の草花中最も清秀のものであります春秋共に蒔てよろし。

一ミイロスミレ

一名遊蝶花と申し秋蒔と翌春一寸位の時鉢に植れば黄、白、紫三色雜の艶美なる花を開きます日中は日かげにおくがよろし。

一シャボン草

宿根草で六月頃桃色の花を開き切花によろし此莖葉をもんで洗濯の時用ゆると石鹼の代りをしませ種は春蒔てよろし。

一苧蒿

一年草で又コウライギクと云ます秋蒔にすると翌年晩春に黄色なる花を開きます切花とするによろし。

一翠菊

一年草で切花によろし花に一重、八重、色に赤、白、紫等其種類多く近年舶來の矮生種は僅三寸餘にて鉢植に最もよく春秋共に蒔よろし。

一 百日草

一名浦島草と云ひ春蒔くと夏月二尺餘になり秋月に至る迄黄、赤、白等の花を開きます近頃舶來の種類にはなか／＼美麗で大輪なのがあり其名の如く花期は甚だながいです。

一 虞美人草

一年草で其莖葉弱々しくして風に撓雨に傷やうですが秋蒔にすれば翌年初夏になり莖の高さ一尺餘で紅、白、覆輪等風姿頗る優く美麗の花を開き一重、八重ありて植換は好みません。

一 飛燕草

又千鳥草とも云ます春秋共に蒔てよろし夏秋の頃二三尺になり燕の飛様な形の花を開きます紫、白、桃色があり切花によろし。

一 美女ナデシコ

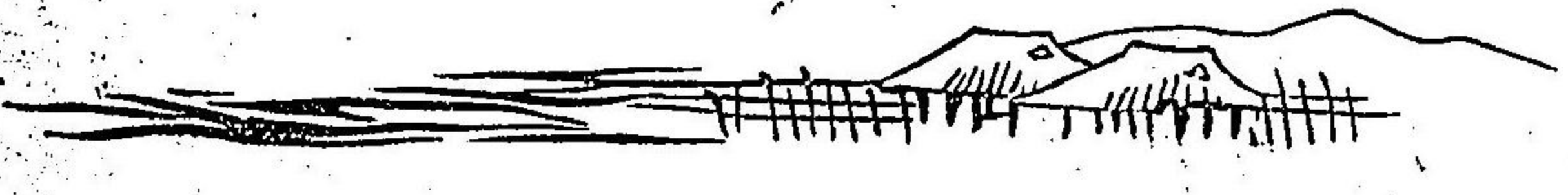
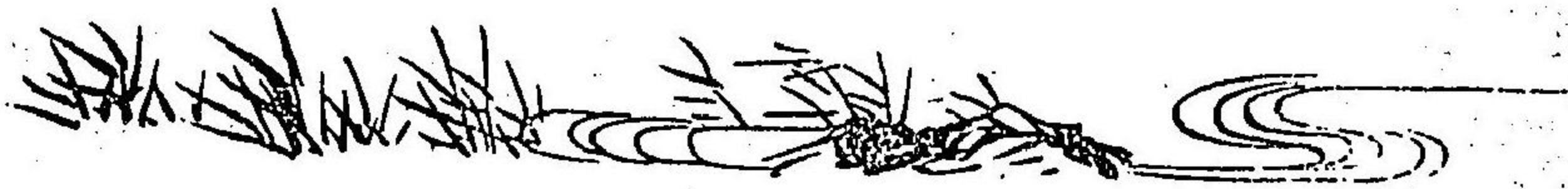
宿根草で春早く種を蒔ば秋に花開き秋蒔にすれば翌春開花します高一尺五寸許で赤と白の二種あります。

一 向日葵

丈高さ一年草で又「ヒグルマ」とも云ひます春蒔くと夏になり六尺許になり鮮黄色の一大花を開て大陽に向つて回轉します。

一 ヒナギク

小き宿根草で四時花を開きますゆへ又長命菊とも云ひます白、紅、淡赤の花が咲き一重、八重、車咲等ありて愛しいものです種は春まくのです。





草花の種類
一 紅蜀葵

宿根草で夏の末になり五六尺に生長し大輪の深紅色な花が咲
ます種は春蒔てよろし。

一 千日草

一年草で春蒔ば夏になり高さ尺餘に育ち多く枝を出し花は球
状で紅、白の二種あり花期ながく切花によるし。

一 香連理草

豌豆の一種にして秋蒔にすると春の末から蔓を出し紫、白、赤、綾
等にて芳香ある美麗の花を開きます何の地でもよくできます。

一 水仙翁

二年草で春種と蒔ば翌年の夏から秋にかけて一尺餘になつて五
瓣の紅紫色又は白色の花を開きます切花によるし。

草花の種類



はげいとろ



鳳仙花



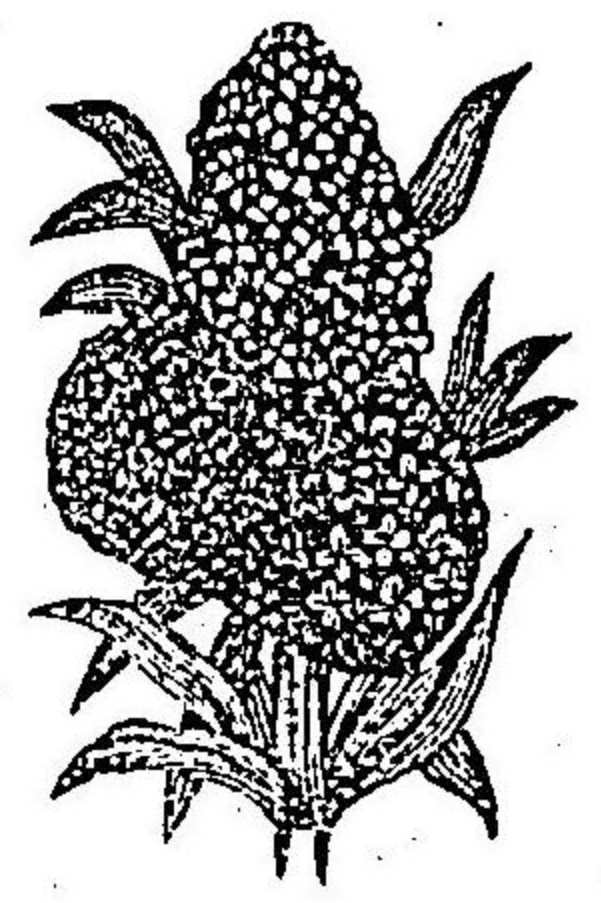
はなびし草



Lobelia



Coreopsis



Candytuft

花傘草

はるしやぎく

ろべりや

草花の種類



松葉牡丹



けし



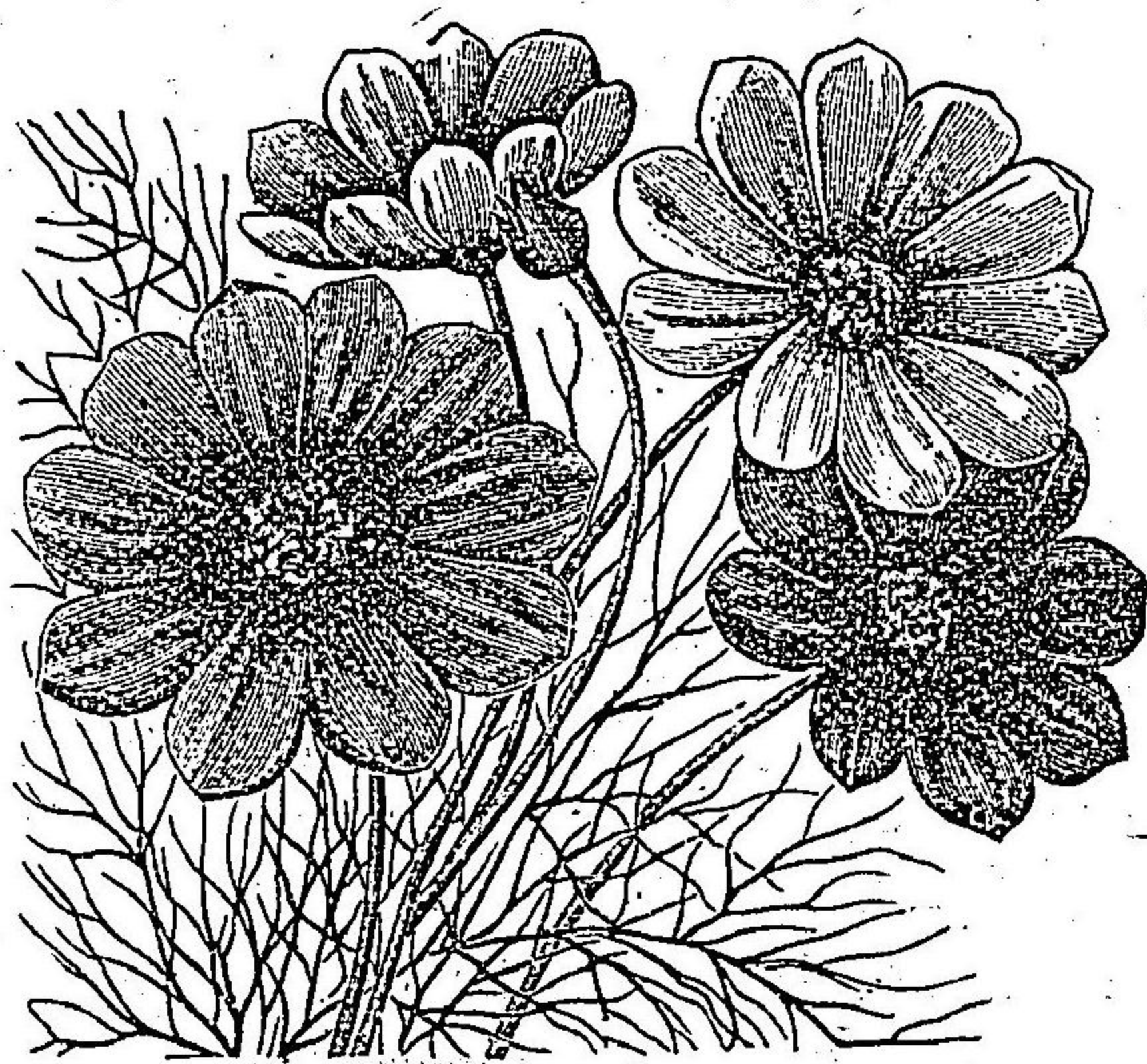
くげいじん
萬壽菊



やぐるま
矢車草



あさがお
朝顔



コスモス
Cosmos

にほひすみれ



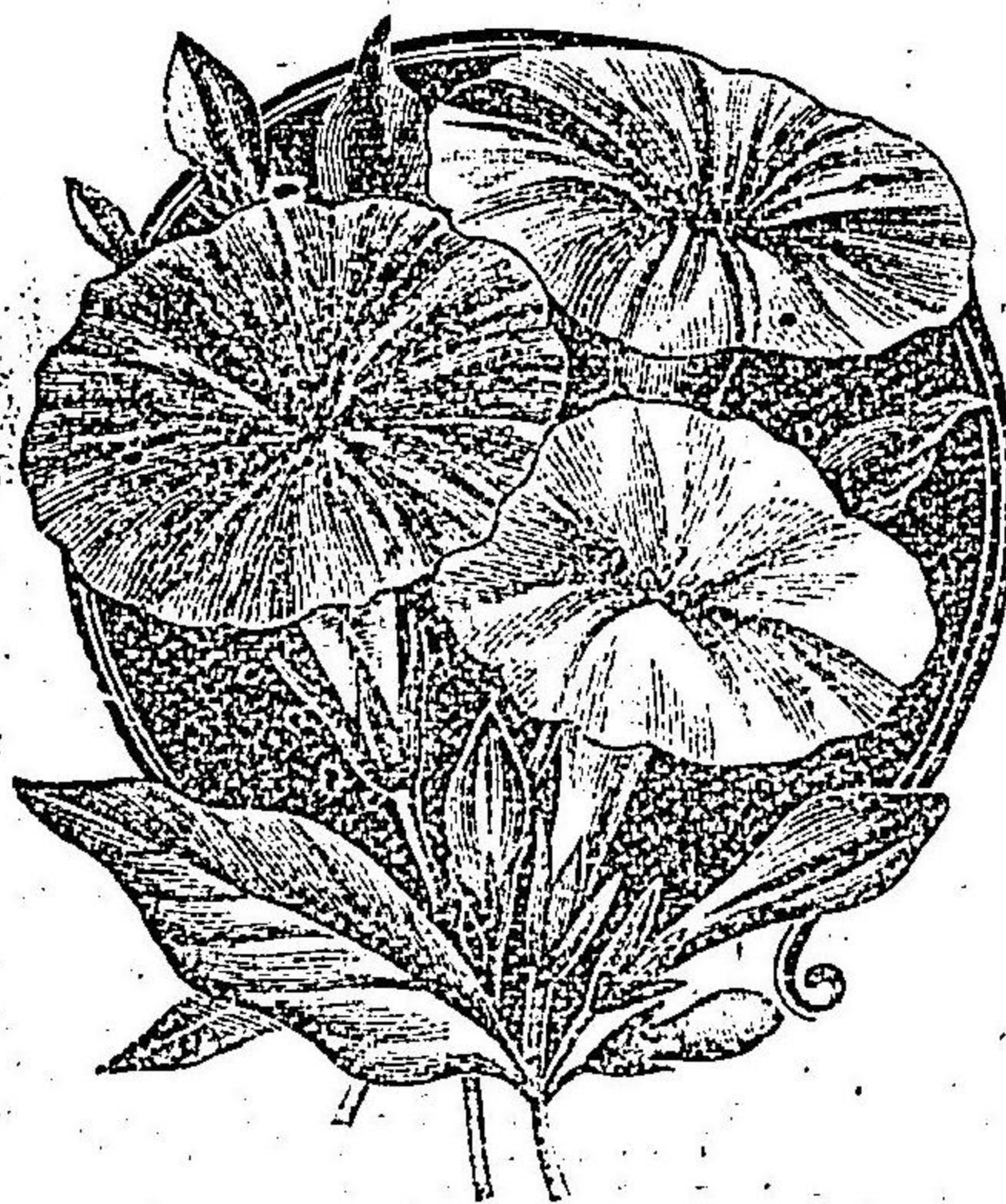
ひばい
紫菜



Cypress Vine

みこら草

草花の種類



草ぎじお

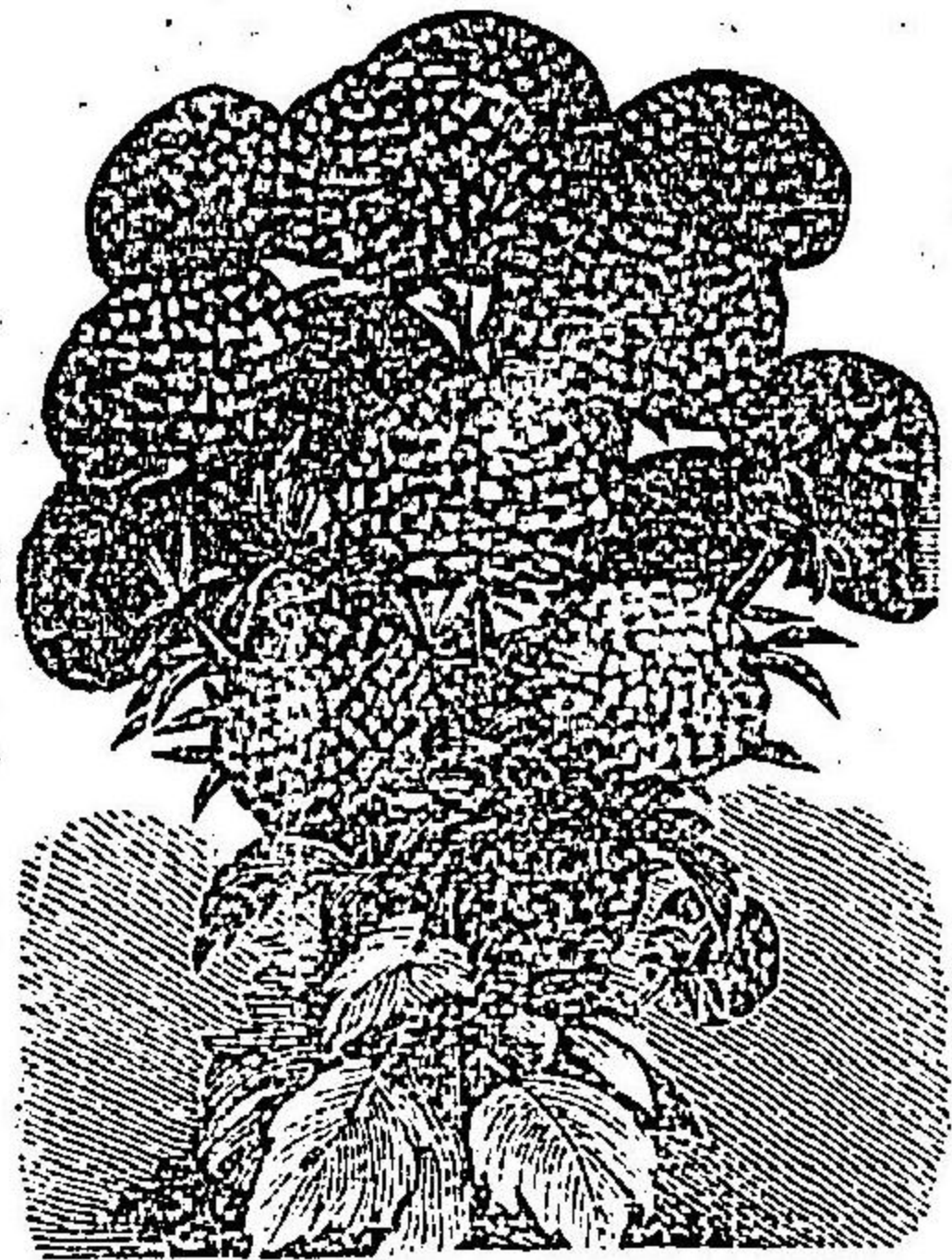


つくね草

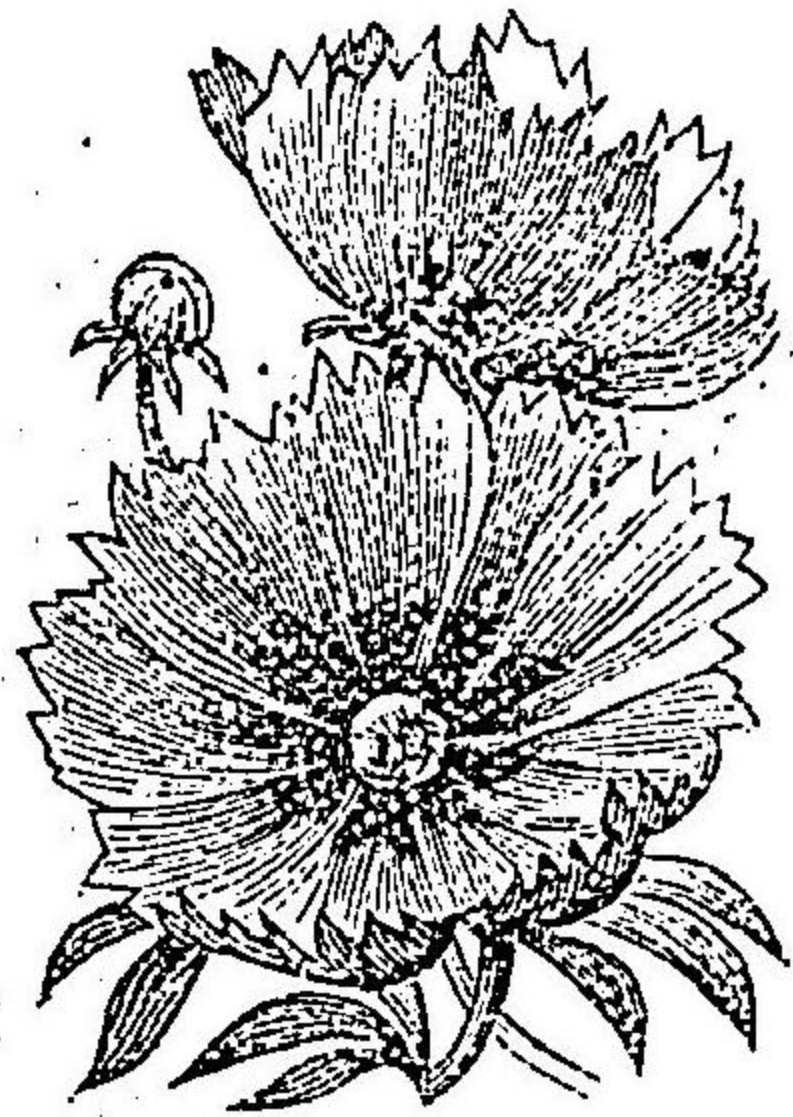


かいさいい

草花の種類

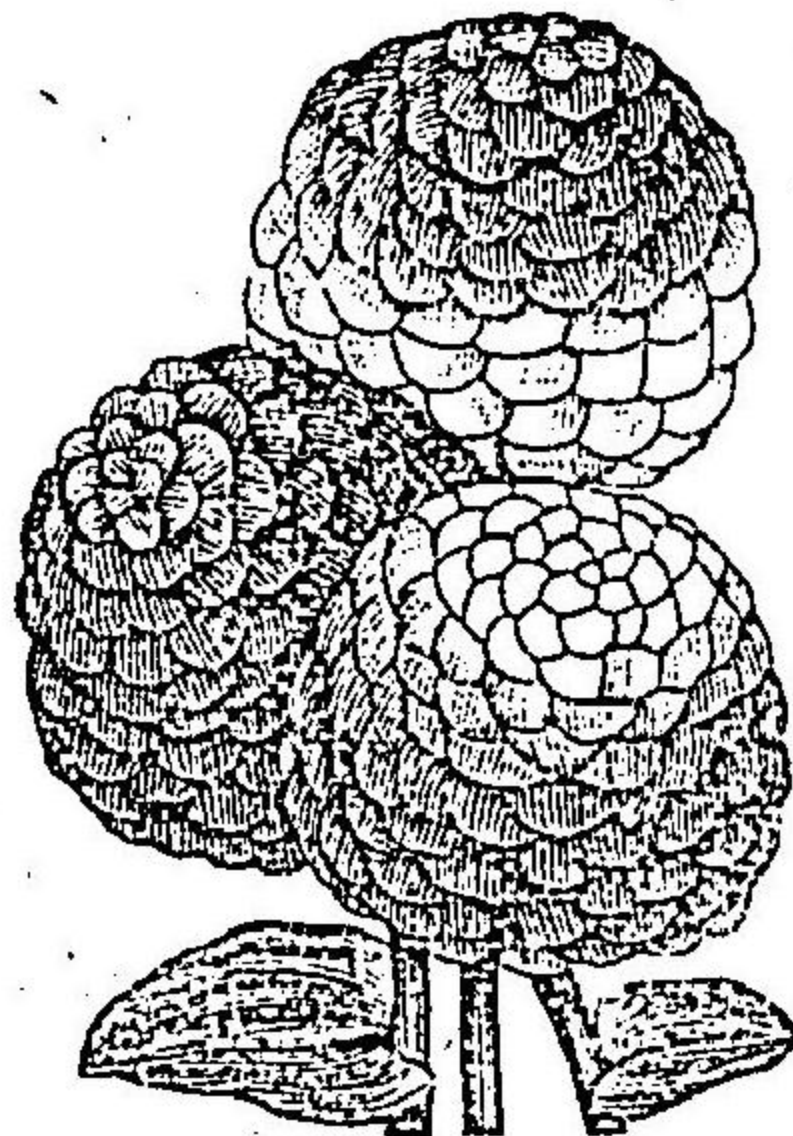


翠菊
Aster



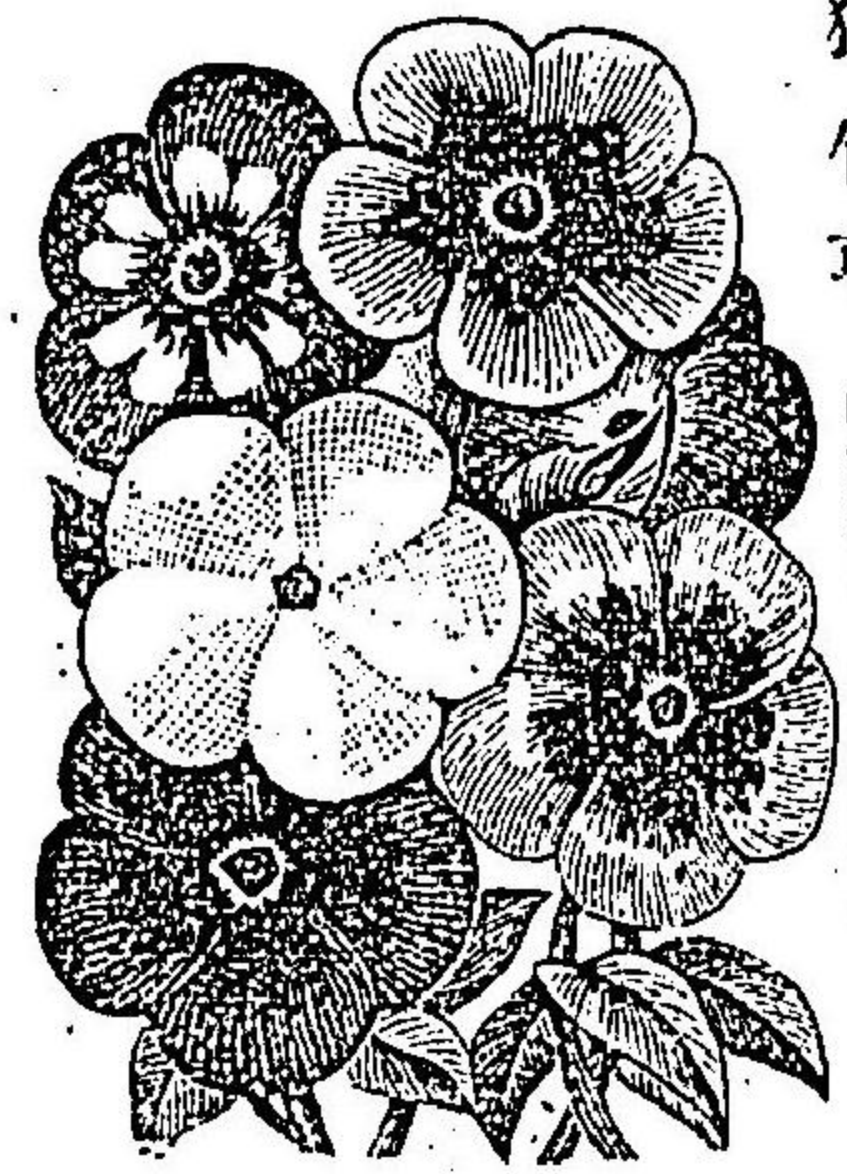
金雞草

百日草



Zinnia

四七



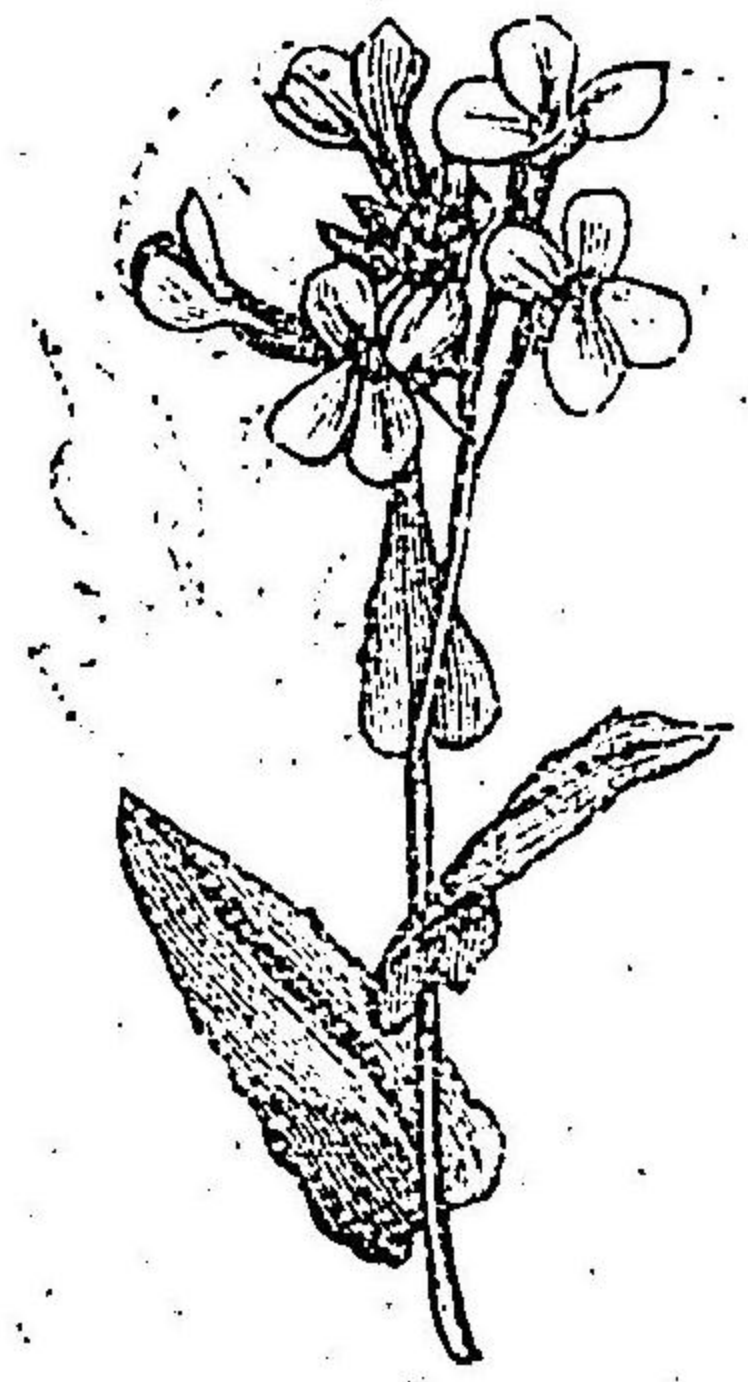
狭竹草
Phlox Drummondii



みいりすみれ



飛燕草

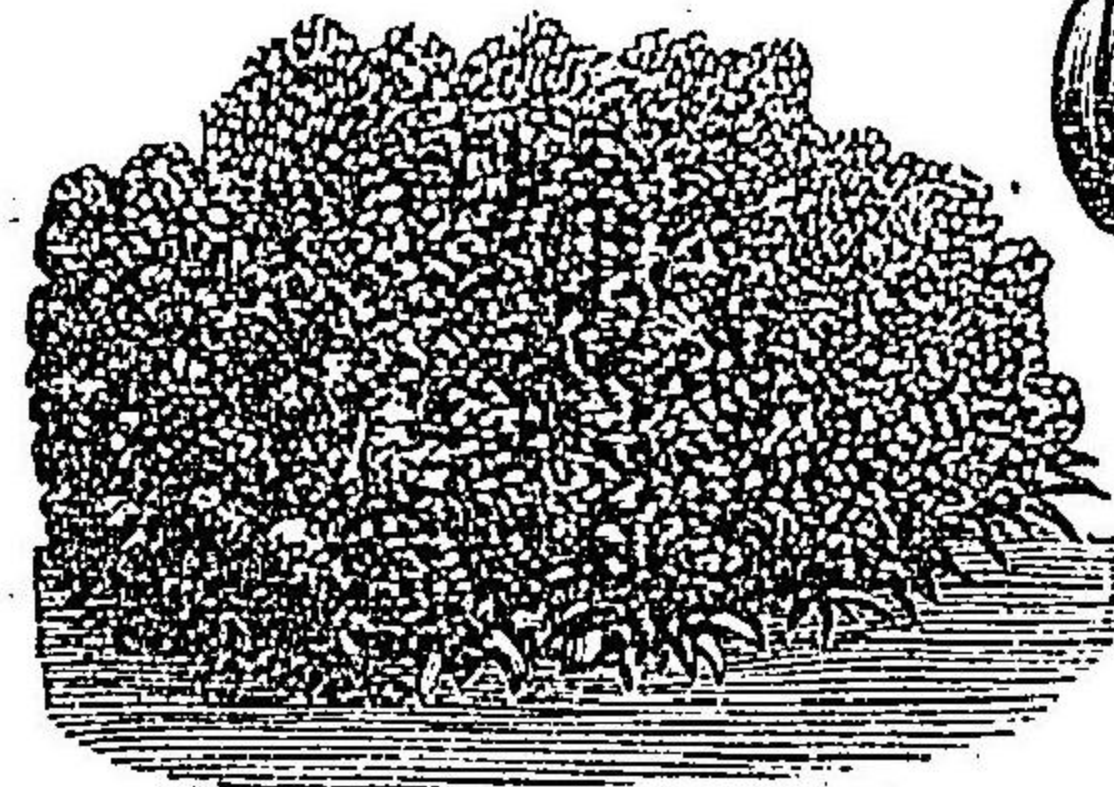
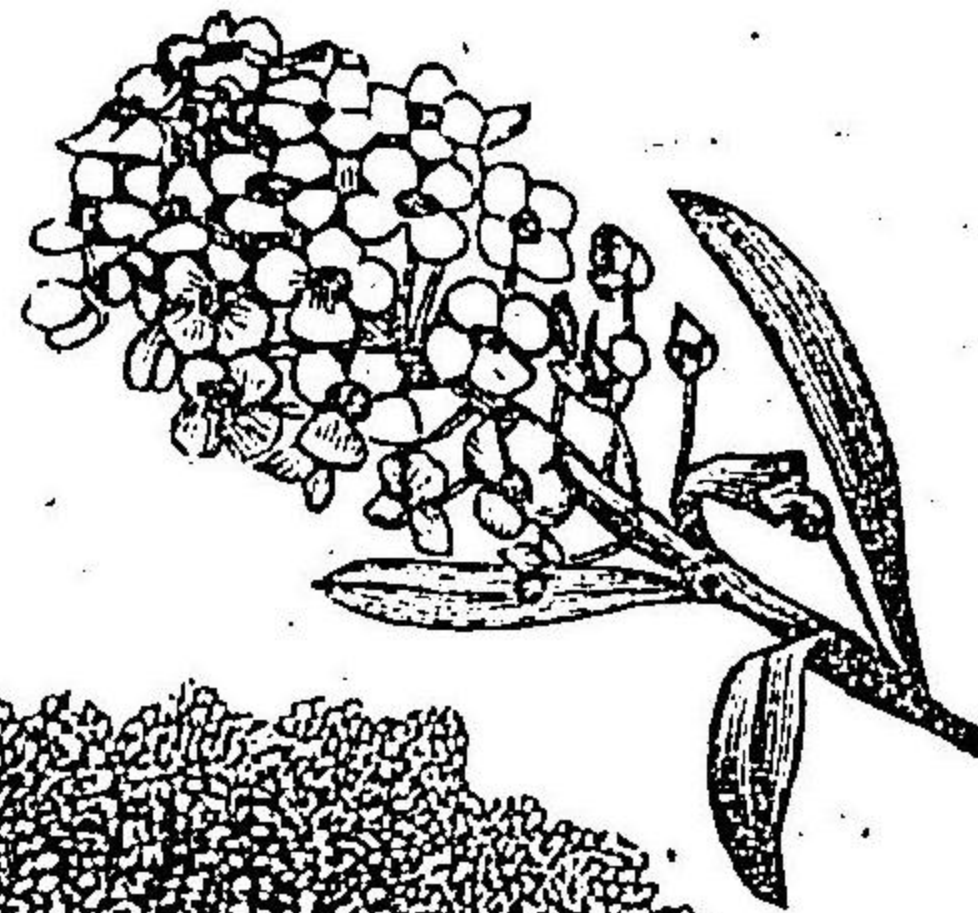


紫羅蘭花

花連金



むさいらあ



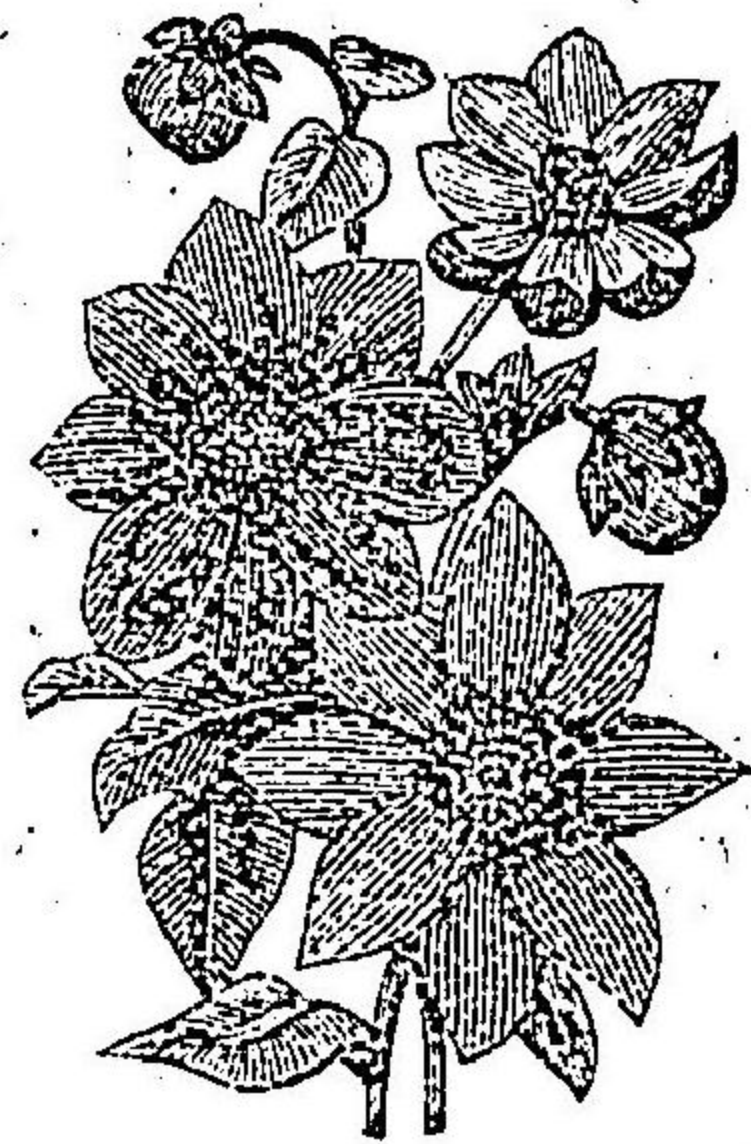
Alyse

天人菊

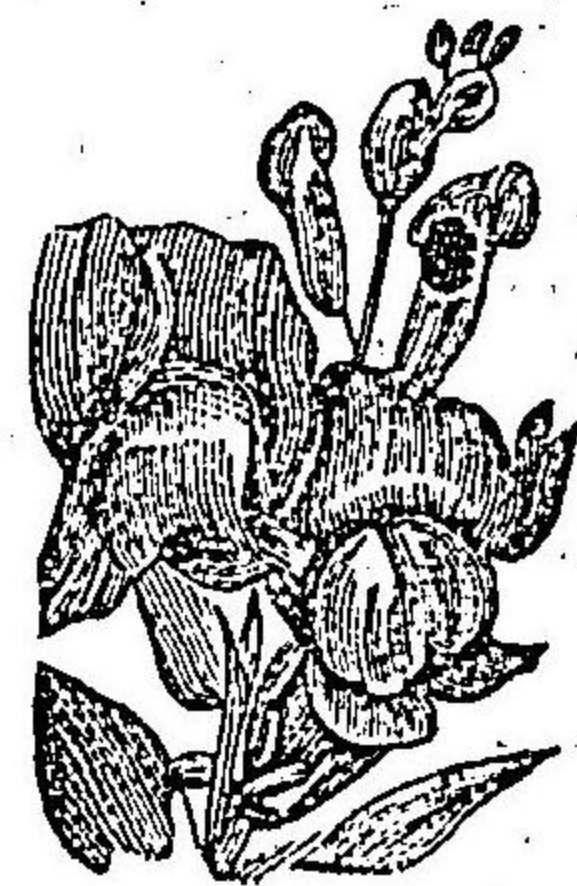


草花の種類

Gaillardia
丹牡丹天



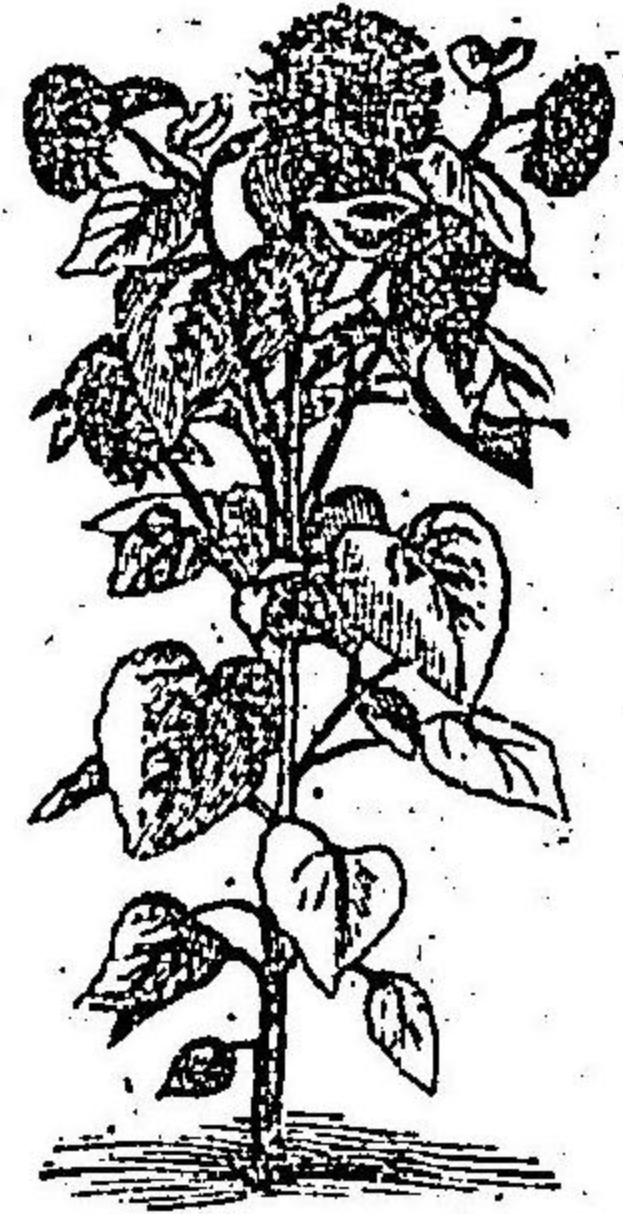
草よぎんき



四六

草花の種類

日向葵



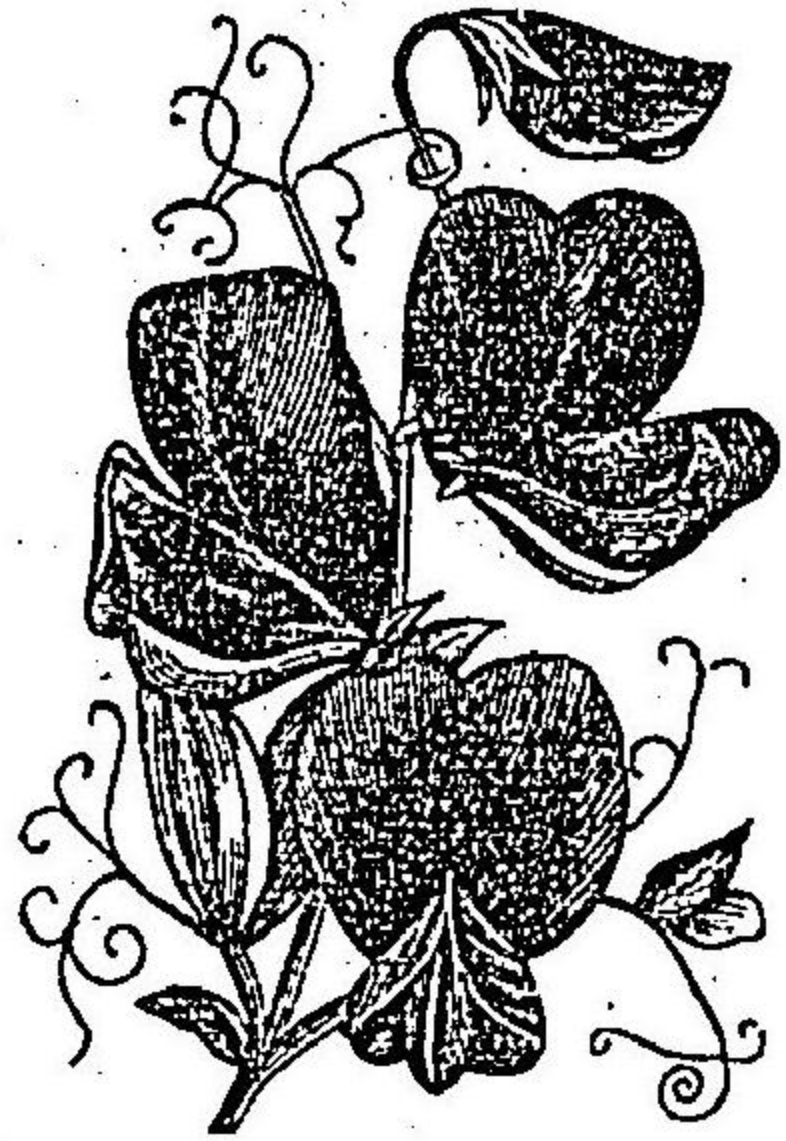
ひなぎく



こしてなまぢび



すうむとびー



Sweet Peas

うごにんぢ



Globe Amaranthus

園藝用具

鉢

草花類を栽培するには第一入用のものにて今戸邊で澤山焼て
います素焼鉢が宜しく此鉢は植物を仕立てるに土燥よく排水に
便利で植物の腐ることが有ませんから西洋でも矢張り素焼の鉢
を用て居ます。

如露

是は草花に水を灌るに最も必用で普通安直なのは「ブリッキ」製
のです此如露の肝要の處は俗に蓮の實と云ひ細穴のある水の
出口です此穴は經驗のない職人の拵たものは水の出方がよく
ありませんから買入る時にご注意なさい。



一 木鋏

是も園藝家になくてならない道具で植木屋が「ナンパン」と唱へております外國の園藝家の使用しているのは日本品より精巧で長く使用するも手を痛めることはありません。

一 園鋤

是は植物を植換る時土を掬よて入に用ゐる又花壇其他にあるものを根ごと抜て移植するに使用するもので草花栽培をなさるゝ方は是非入用で大小各種あります。

一 ホイ

此器は花園及び圃上の草を除に用ゆる簡易なる西洋農具の一にして其輕こと日本鋏の五分の一にも當らず婦人小供にも使用することができます。

一 レーキ

是は花園の土を碎き又は地面を均し及び刈草削草を掻集る等に使ひみちが多です。

一 ホイ、レキ

是は前二種を連結たるものにて便利のものです。

一 五本爪除草器

是は花壇に植てある草花の株と株との間の草を除に最も便利であります。

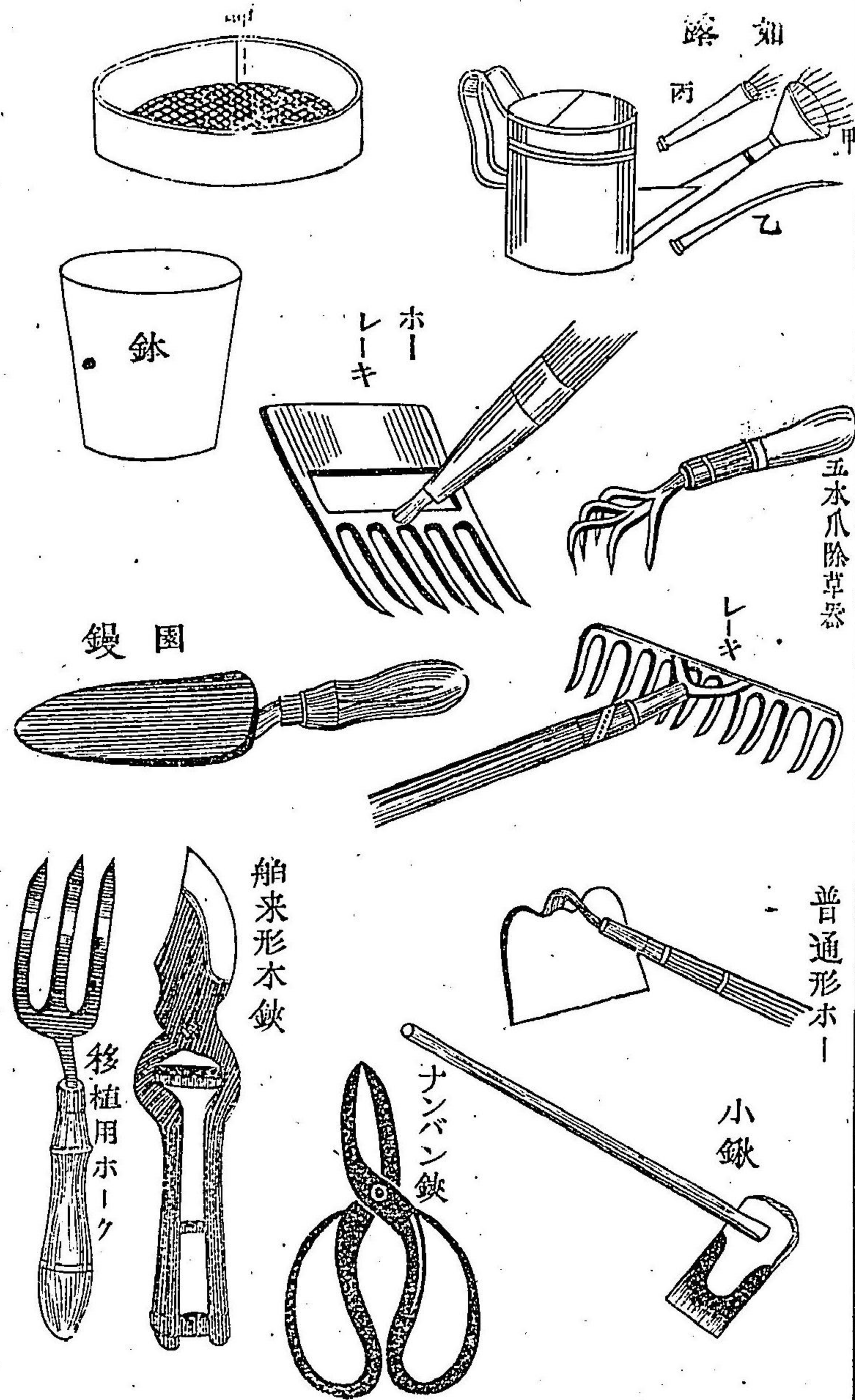
一 移植用ホイク

是は地面の硬所を掘に宜しく又苗を抜に其鬚根を横切事なきゆへ根の損傷ことが極く少ないです。

一 篩

園藝用具

園藝用具



五三

園藝用具

五二

是は草花の苗を鉢植にする時又は花壇をこしらへる時土を篩ふ器にして竹篩又は金篩大小の別ありて園藝家にて入用の者です。

一 小鋤

此器は普通農家で用ゆるものより小さく素人方の使には手輕てよろし。

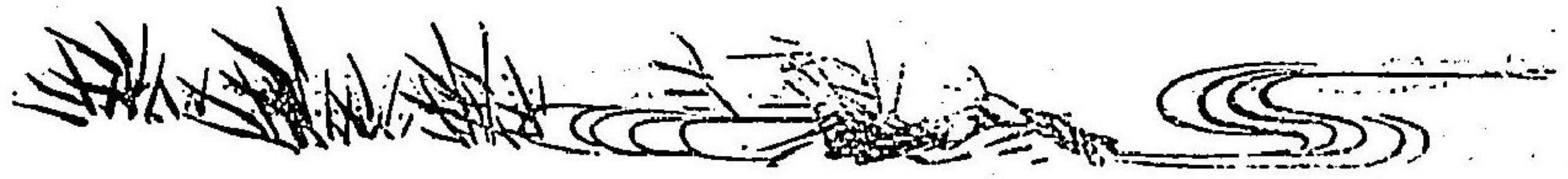
附 録

スミレの栽培

『日本スミレ』——『ニホヒスミレ』——『ミイロスミレ』

○日本スミレ

人の心も長閑なる春の真中の三四月、野も山も見渡す限り花にして、野邊に其美を競ふ、堇菜、蒲公英、紫雲英、さては菜花、櫻草と、うたわれおります。が、其中で可憐の花は第一「スミレ」にして、やう、此草は到處の原野に自生して、たゞ野の草として賞せられてをる計りです。が、近頃西洋「スミレ」の流行と共に其栽培を試むる方もありと聞かよびます。から、茲に「ニホヒスミレ」や「ミイロスミレ」と共に、其栽培法



の大略と、日本「スミレ」にも其種類の「澤山」あることを記しまして、皆さん方の参考といたします。

さて「スミレ」は一夜草又「コマ」引草などの異名ありて山野に自生し、其花は愛すべき色と形を具へたる處より、子供さん方は其を摘とり相交へて引合ひ、戯遊處から又「スマウトリ」草の名もあり、優にやさしき草花にして、庭の飛石の間などに捨植にすれば、限りなく殊勝らしく紫の色の濃かれども、然も朱を奪と云迄にはあらず、又丈け高くして他を凌がんとせせず、自ら謙讓の心を含み可憐の美楚々人を動かし春の野邊を色どる花は、先第一に此の「スミレ」でありましやう、之は昔から發生あつた者と見へ、萬葉集に高田女王の詠だ歌に「山吹の咲たる野邊の壺須美禮此春雨にさかりなりけり」又崇徳院の御歌に「あれはて、淋しき宿の庭なればひとりすみ

れの花と咲ける』其他

浅茅原見るにつけても思ひやる

和泉式部

いかなる里に菫摘むらん

春の野にすみれ摘にも來し我そ

山邊赤人

野をなつかしみひと夜寝にける

紫のすみれつまむと赤人も

蜀山人

美どりの野邊にひとよれにけり

すみれつむ野邊は霞の袖はへて

霞人しらす

薄紫の色ぞ匂へる

摘に來る小野の芝生の壺すみれ

同

若紫の露にぬれつゝ

箱根山遊紫の壺すみれ

同

二しほ三しほ誰が染めけん



殊に小澤蘆庵の如きは、若し此花がなければ春の野面といかてのみ眺あらんやとの意を仄かしてをります。

紫の莖の花の匂へばや

小澤蘆庵

なべて春野はあかず見ゆらん

あらずして暮るゝ春野の露ながら

同

つめる莖に月ぞうつらふ

右の外、有名なる芭蕉翁其外の俳句にも、此「スミレ」に付ては中々詠な趣があります。

山路来て何やら幽しすみれ草

芭蕉

莖野や今見しむかしなつかしき

几董

死なん命住まば莖の花の露

曉壺

鼻紙の間にしほるゝ莖かな

園女

傾城の畑見たがるすみれ哉

涼花

一夜寝て猶儼かしきすみれ哉

櫻良

行や我莖隠れの濱雀

白雄

なか／＼によき衣恥ふ野は莖

同

汁の實にならで嬉しき莖かな

葦泊

振袖のすみれにしめる野影哉

季吟

并に花を打けりすみれ草

道隣

人踏まぬ都僅にすみれ草

蓼太

右の様に古來から歌俳諧に讀れながら、唯野の花として賞せられしのみにて、好事の人も其種類を集め培養して改良を圖るものありとも聞及びませんが、近來是等を採收て培養を試むる園藝家もれひ／＼増加するよし、誠に莖菜の爲に歡ばしい事であり、花は通常濃紫色にして花冠は五個の瓣ありて、野生のものにも純白あり、淡紅あり、又は紅、紫、濃紫、黄色の花もあり、或は葉面の美しいも

の又は葉形の異りたるものあり、中には香氣を含むものもあり、すから、少しく栽培に注意して新種を作り出したら、實に愉快ではありませんか。

て栽培法と申した處が、原來野生植物にして野にも山にも田舎道の邊にもあれば、少しく廣ひ庭先にも思はず咲出て、子供さん方に愛せらるゝを見れば、何の雜作もなく生長し、至て丈夫の草であり、ますから、別に六ヶしき事はありませんけれども、其植べき場所は風通しのよく、一日中、半日は日光の直射を受ぬやうにし、且土は細くふるひ根の締らぬ様にすれば、殊に宜しく、又鉢植の者は鉢の側面から日光の強く當るのは、スミレの爲に餘りよくありませんから、其時は注意して日かげの所に置様になさい。又肥料ですが、是は原と野生植物でありますから、別段に肥料をや



る必要はありません、けれど白水位は少々づゝ施てもよろしい、又鉢植は肥料を施る代に、年に一度は必ず他の土で植換るのが肝要であり、ます、繁殖ことや其他の方法は、「ニホヒスミレ」の條を御覽になりて御承知なさいまし。

一 種類

堇菜の種類は、其科に隸するもの澤山あつて、吾日本には唯堇菜屬「アイオラ」一屬ばかりより外に産出しません、そうです、此「アイオラ」屬の者は、世界各國に凡二百種程ありまして、最も之は變種をも算へた數で、實際の處百種許りあるそうですが、吾輩は専門的研究を致しませんから、詳しくは知ませんが、何しろ植物學上堇菜科と云ふ一科を置かれる程であつて、野生のもので、すから草花の内では随分有名の物で、詩や歌に諷はれたもの、世界各



國とも中々尠くありません、我日本では紫「スミレ」、白「スミレ」、さては黄「スミレ」、立壺「スミレ」、歌に詠るゝ壺「スミレ」、杯「スミレ」、此外にも澤山ありまして、大學植物園の牧野先生が御調になつた、日本産の「スミレ」類の名稱に従ふも四十九種の多に達してをります、又武田久吉氏が三十七年一月の『博物の友』第二十四號に列記されたるものに據ると五十四種あり、又博物學研究會で編纂になりたる『スミレ圖譜』にも三十五種類ありて、歐米諸國に比べて其種類の甚だ豊富なることが知れます、茲に日本「スミレ」五六の略解と二三の略圖を掲げて、目にかけます。

堇菜

俗に「スマウトリ」草と稱へ女子供の愛するものは野にも山にも到る處に生長し葉は長く狭く濃紫色の花を着ます。

白堇菜

是は前種と花葉ともに同じ様で白花を開き下瓣に限つて紫の線があります。

壺スミレ

是は花も草も極めて小さい普通の品にして花は純白で下瓣に紫の線があります。

タチツボスミレ

是は各地に多く生へ莖直立し高さ八九寸あり夏の初め莖頭葉腋に鮮かなる淡碧色又は白質に淡紫暈りある花を開きます。

香タチツボスミレ

是は東京附近及び關東の各地に澤山ありて其形前のより小花瓣は圓く色は紅紫で芳香があり牧野先生が新に此名を付た

のだそうです。

黄スミレ

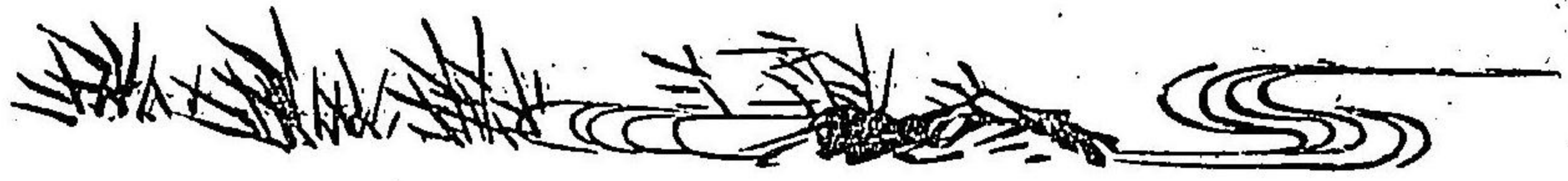
いろくありて東京の花戸にあるは「オホバキスミレ」だそうて
す是は黄花にして下瓣に褐色の線がありて北海道の方の寒ひ
處に産します。

エゾスミレ

是は「エネサンスミレ」又「カクレミノ」とも申し花は淡紅のものと
淡紫色のものがありて芳香深くして花が大きい上に其葉に趣
きがあつて日本「スミレ」の中では一番です。

ヒゴスミレ

是は前種と同じ様ですが之には白花で殆四季咲のものがあ
ります。



アケボノスミレ

是は秩父其他の山の中に生て紅紫色の大輪の花を開き美麗な
る「スミレ」て花の開くとき葉はまだ開きません。

日光スミレ

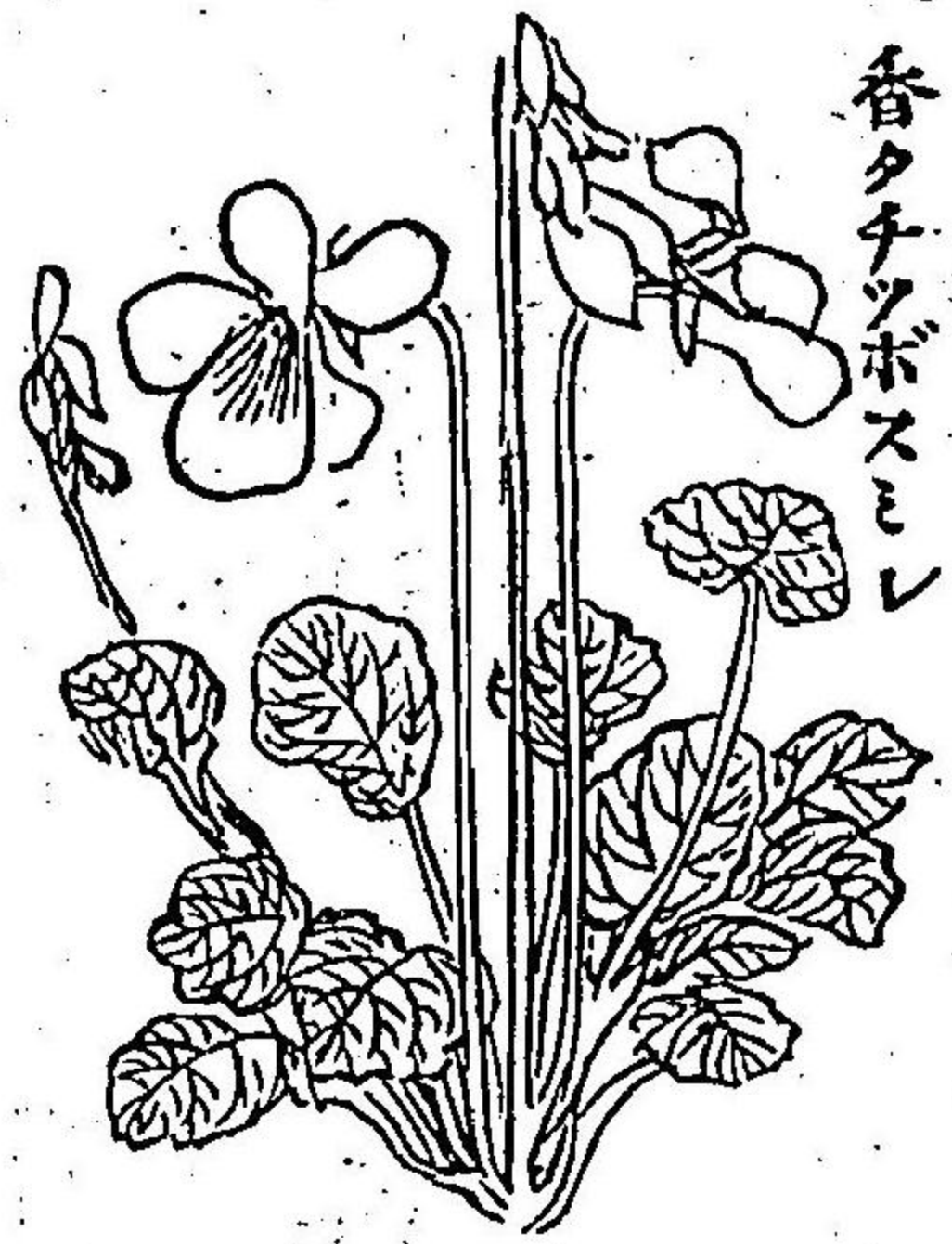
是は草も花も小さくして白花の下瓣紫の線が鮮て葉背は紫色で
表は葉の脈に沿て白色の班紋を顯出て葵の紋の形をなし日光
山には獨りばへが澤山あります。

ゲンジスミレ

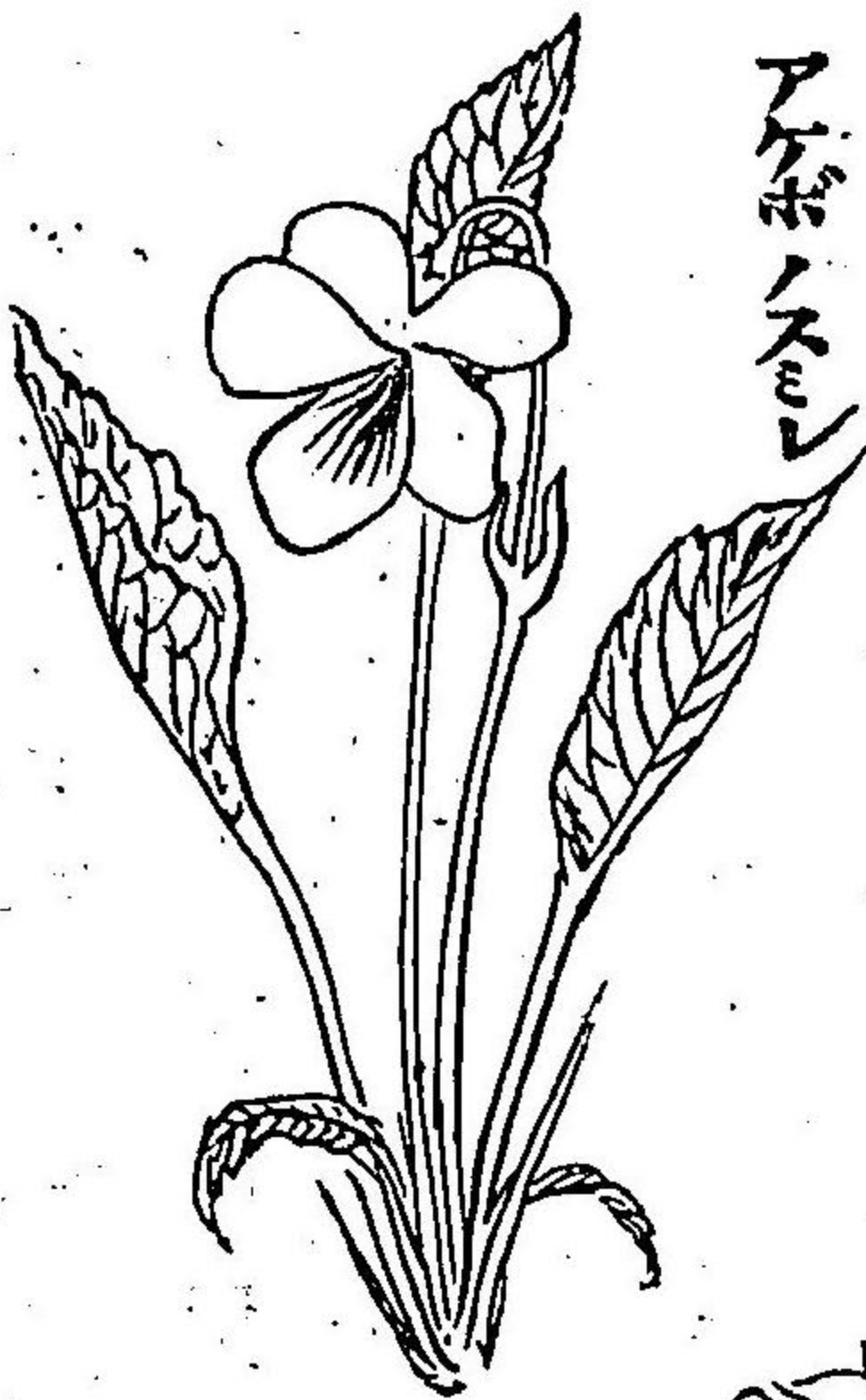
花は淡紅紫にして芳香あり葉背に紫色を帯び長野市の近所松
本市の近所にも獨り生へが澤山あります。



香タチツボスミレ



アケボノスミレ



日光スミレ



エゾスミレ



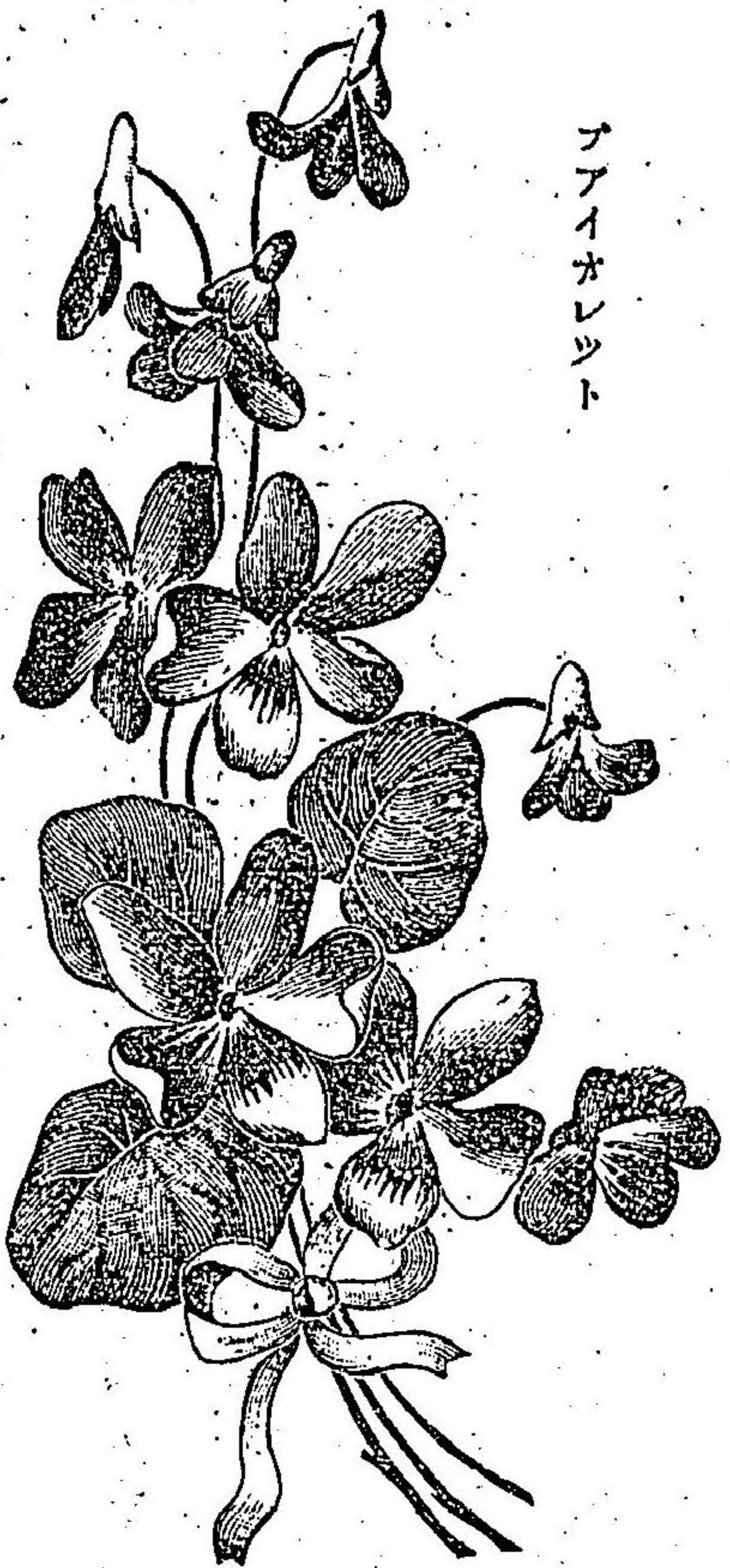
ゲンジスミレ



○香堇菜

「ブアイオレット」の原種は、英國野生のもので、植物學上堇菜科に屬し、學名を「ブアイオラ、オドラタ」と云ふて、香のある紫色の一重咲のもの

ブアイオレット



たが段々世が進みて園藝が盛んになり、人工媒助法にて

次第に發達して終に今日の様に一重咲の大輪又たは八重咲のものを出す様になつたのです、然るにこう發達させたのは誰が始め

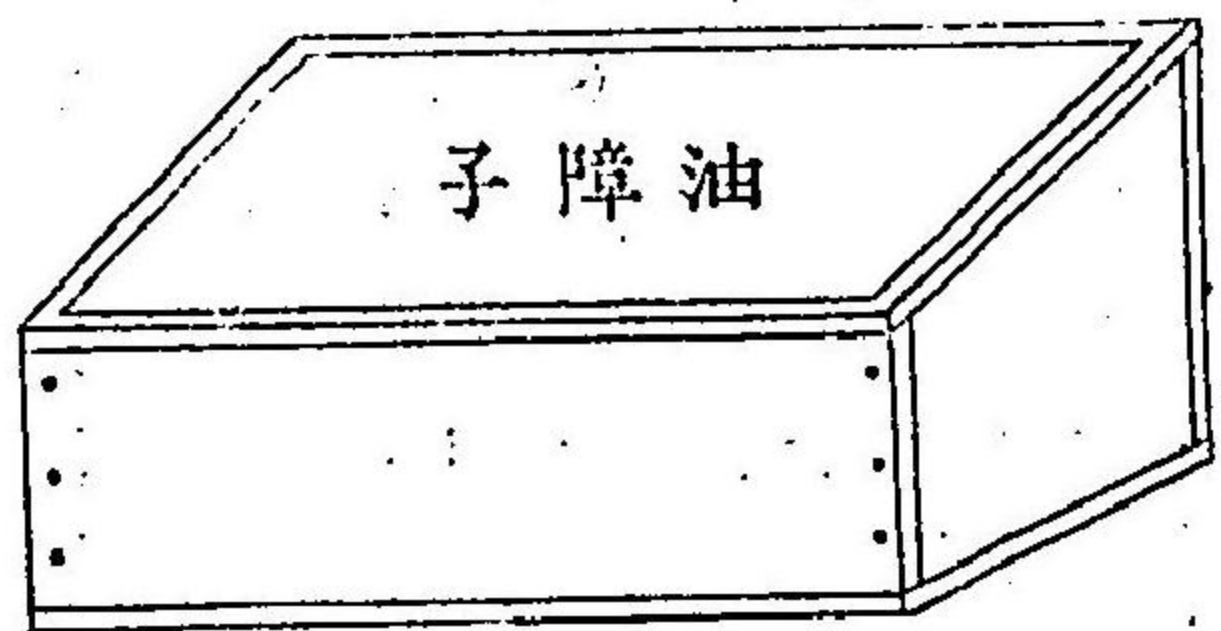
て何時代から起りましたか、其はまだ詳かにする事ができませんが、今日にては歐米諸國は云ふに及ばず、近來我國にても非常に賞翫して愛養ふものが多くなりました、此草は各位御存じの通り、日本在來の「スミレ」によく似てをるところではありません、花葉共に見分が付ません位です、けれども其開花の時節が違ひ殊に其花の香が馥郁として春期に於る襟挿花、東此外卓上盛花等に此花を見ない時は何となくものたらぬ心地せしむるなど、此花の如何に皆さんに歡迎せられつゝあるかを想像せらるべきで、到底日本の普通種類と日を同じくして語ることはできません。

花の咲く時節は、暑さ漸く去つて冷風を覺ゆるの時から、段々に微しの笑を洩し、秋露が漸く冷かなれば、其勢力稍加はり、花の數も之に随つて増加もつて、降霜時節即ち十一月から續々花を開き、殊に

花珍らしき十二月から翌年の二月まで僅の花より外に見るべきものゝない時が、此花の最も盛りの時で、一重咲は三月下旬彼岸すぎに、八重咲は四月中旬になりて、大概花が謝のが普通であります、けれども其年の氣候と發育の如何とによりては、往々速いこともあり又遅いこともあり、先づ試に蝶の様な可憐なる花の二三輪開いたる一鉢の香堇菜を吾が書齋の机上に置ふものなら、其清く氣高く得もいわれぬ香は、おのづから袖や袂にしみわたつて、宛がら香堇花の香水で浴びしたかの様に感じられます、殊に外から其室に這入て來る者は、忽ち劈頭第一に芳香鼻頭に襲ひ來つて、身は是れ神おます國に徜徉するかの心地がして、實に堪つたものでありません、且此草は宿根草でありますから、一度植れば永く絶へることなく、年々増殖して其性質は極めて強壯の者であります。

一 繁殖

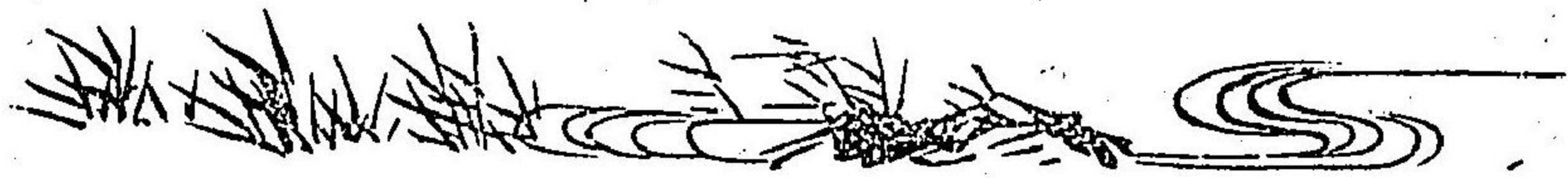
繁殖は種蒔根分などによつて殖すことが出来、まして第一種子を蒔にも移植の時期によつて二期に蒔付ます、即ち春移植する場合には九月末から十月迄に種を下し、又初秋に移植する場合には六月に下種するので、其の法は先づたんと排水孔のある平なる鉢の下底に鉢の片を敷並べ、其上に細き土を入れ表面を均して、夫に種子を撒蒔して極薄く土を被せ、如露にて水を少しかけ、日光の直射しない温暖なる場所に置まして、乾燥ない様に適宜に濕氣を與れば、凡十日位にて發芽しますから、其葉が二三枚も出た時に、一度假植して充分に根を張しめてから、然る後に春秋兩期に自分の思ふ場所、即ち鉢又は花壇に定植するのです。第二根分は大抵秋期にするので、親株から出る小苗の根を出す



もの、又は根のないものにて、之を親株から切り離して細き土と砂と等分に混ぜたる者を鉢に入れ、其に植て日光の直射せない處に置き、時々水をかけ適宜の濕氣を與へれば、能くつきて成長します、之を秋季になりてから鉢又は園地に植るのです、鉢植にするには口徑三四寸位の鉢に細き土と腐熟たる壤土に細砂の少量を混たる培養土を入れて植付け、三四日間日蔭に置いて既に活着てからは、空氣の流通及日光の充分なる温かさ場處に置き、氣候の寒くなつてからは、硝子障子のある木框内若くは蜜柑箱を上圖の如く切り、内側を紙にて二三枚張り、油障子又はガラス障子をかけ、夜は新聞紙五六枚を以て覆ひ、或は温き室内にて培養すれば冬

の始めから春の終まで、絶へず佳香ある花を開きます。
 一 花壇栽培

香堇は元來夏期の炎熱を恐れ、且終日日光の直射するのを忌むのですから、之を花壇に栽培するには、此性質に適ふ様な場所即ち午前中は日光を受るも午後は日光を遮る處にて、土質は成べく天然に肥たる處にて、自然に温氣をもつ場所を撰んで、横一丈二尺縦三四尺にて長方形の花壇を拵へ、充分に土を細くして其處へ草や木の葉の腐たもの、又は厩肥等の腐敗て土の様になつた者と混ぜよく之を均し、平地より三寸位の高に土を盛あげ、四五月の頃茲に苗を植出のですが、其距離一重咲は株が太くなるから、其間一尺位又八重咲の方は六七寸位の勘定を以て植るのです、そして此苗を植出につき特に注意するのは、新苗に微菌



の有無を調るのです、其の發生は入梅後殊に盛にして、冬期僅に其の勢力を減ずる様です、最も新苗には未ださう寄生して居ませんけれども、一本にても居ると云ふ事を認めましたら、直に採去る事が肝要であります、植付後は暑さ段々烈しくなりますから、日光の強くあたらぬ様藪簀を掛け、又風通の好き様になし、油断なく灌水又は油粕のよく腐敗たる者に水を混て時々施せば、強健なる芽を出し來る、花期には見事なる花を澤山に見ることが出來ますが、夏季中の栽培方に依て開花に大なる相違がありますから、注意して此間に充分發育せしめるがよろしい、又新芽の生長するに従て匍萄莖を出すものでありますが、株數を殖す場合の外は除き去るがよろしい、そして降霜ときになれば温暖地方は格別、其他の地方は大抵霜柱の爲に折角咲かゝらうとす



る處を地盤の凍る爲に其害を蒙るものなれば、花壇の南の方を明け、東西北の三方は藁を以て寒き風を防ぎ、且上の方も南を高くして北を低くしたる屋根を作りて充分保護しますれば、十一月頃から十二月にかけ點々、開花して馥郁たる芳香は庭園に満ち、而も其餘薫は溢れて室内に來る者實に得も云れぬものです。

一 鉢植の栽培

「ニホヒスミレ」を鉢植にするには、先づ口径三四寸位の鉢を採り、其下底に鉢の片を並べ、夫に花壇の土と同じ様なる肥へたる土を篩ひ入れ、適宜の株を一本づゝ植付るのです。植付が終りたれば直に如露にて水をかけ、二三日日蔭に置き、根付たる頃段々にひなたに出し、時々如露にて鉢の底迄水の行き渡る様に充分汲置の水をかけ、乾燥のを防ぎ、冬は暖かなる場所に鉢を移して霜

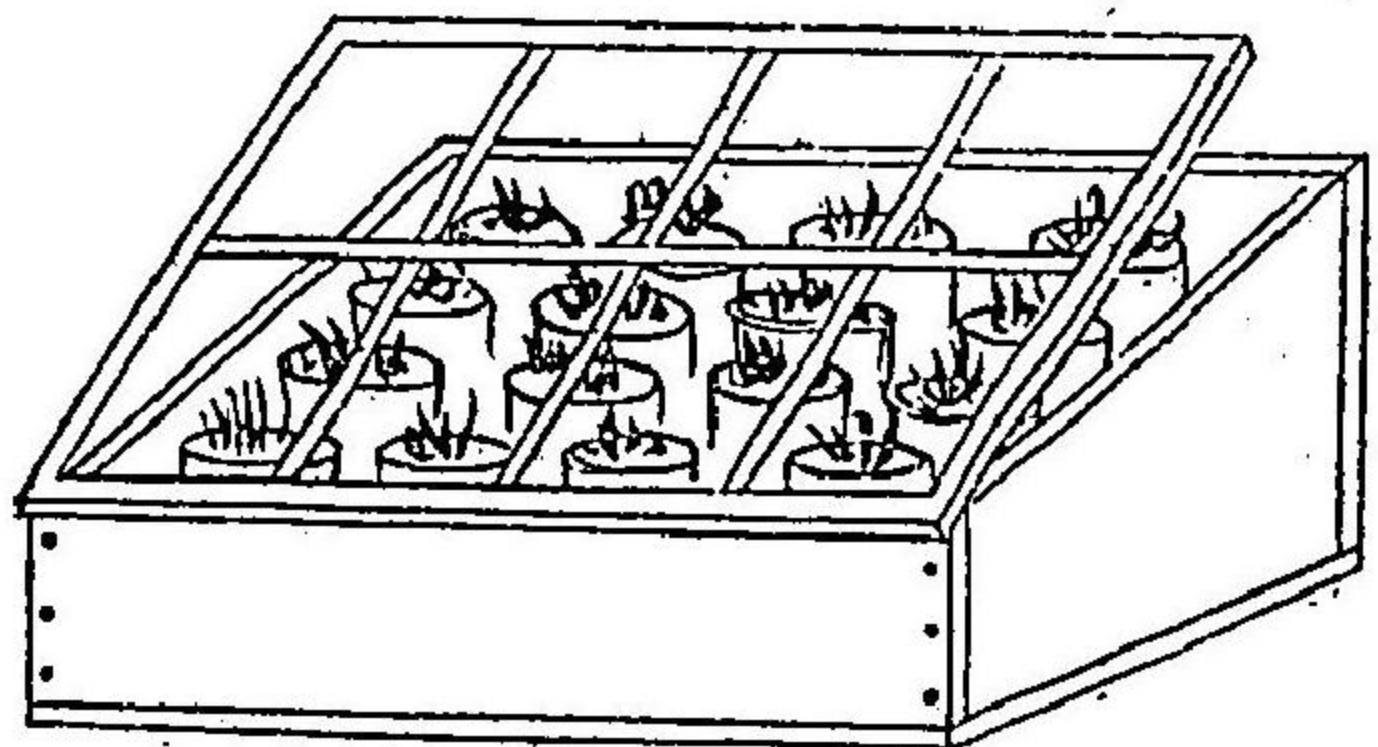
除をなし、之を養ふか、又は框内に入れるとも何れにても宜しい。夏は之を冷涼くして日光の直射しない處に移して保護するので、斯様に其位置を轉ずることに於ては、鉢植は尤も便利であります。又鉢植の香堇は毎年開花後四五月の頃になり、之を鉢から抜き取つて、日光の強くない北向の清涼なる場所に移して、度々稀薄水肥を興へれば、能く生育繁茂して多くの匍萄莖を出します。が、之を繁殖用にする外は、残らず摘去がよろし。

一 木框内栽培

此植物は前にもいふ通り歐米諸國にては非常に貴重せられ、話に聞くと米國などでは切花用としてのみ此花を専門に栽培して居る家があるといふことであるから、此花がどの位愛されて居るか、大抵は察せられ、従て冬期に於て市場に出す花の産額

は頗る驚くべきものだとうです、獨り西洋各國許りてなく、近來

木 框 内 栽 培



ものになりては一花貳錢の値するを以て、少しく地所を有し
又花の栽培を好むものは此木框栽培をなし、一方には世の需用
を満し、一方には吾囊中を暖むるも又愉快ではありませんか、今

東京市中にても上流社會は西洋風の盛
花を室内に粧飾事や、又は他に贈ること
が流行して來た結果、種々の草花を需用
することが多くなつたことは、實に争ふ
べからざる事實ですが、近頃は冬になつ
て此花を使用すること多くして、通常十
一月の初から切花を賣買するのが例に
て、一重咲のものにても一花壹錢、八重咲

左に其栽培法の大畧を記します。

先づ此植物を木框内に栽培するには、秋季口径三四寸位の鉢に
馬糞と腐壤土八分に、細き砂二分を混ぜて入れ、夫へ小き苗を植
付け、そして如露にて汲置の水を充分に灌けてから、木框内に入
れ、天氣の晴れたる日は新しい根の發生するまで、日光の直射を
防ぐ爲め葎簀を以て木框の上を覆ひ、毎日其鉢の乾たるか濕つて
をるかを見て適宜に水を灌け、夫から根を出したると見極めた
る時は覆を取り除き、充分に大氣及日光に觸れしめ、二週間毎に
能く腐熟たる薄き人糞をやり、又降雨及降雪の時は硝子障子を
木框の上に架け、晝間は「クレマイエール」と稱へます高さ一尺二
寸位で四段ある、即ち圖の様な物で、其の時の寒暖に依
て適宜に其段に硝子障子の一端を乗せて、能く開閉し晴天の日

は障子を残らず取りはづし、成べく外氣を導びき入れて其の發育を助け、漸く成長するに従ひ適宜の大きさの鉢に移し植へ、夫れより開花する迄一週間毎に油糟のよく腐敗たる薄き水肥をやる時は續々開花します、開花後は暫く乾燥を防ぐため水を灌ぎ五六月の頃になりて株分をなすのです、又木框内へ直に栽培するには、落葉の腐つて壤土となりたる物三分、馬糞ネワラの腐つて壤土となりたるもの五分に、細き砂一分と泥土一分を能く混ぜ合せ、其に少しの過燐酸石灰を加へ四寸の厚さに入れ、そして六寸四方位に一株づゝ植へ、如露にて汲置の水を灌ぎ前に述べたと同じ様に天氣のよき時は植付けたる株の根づきたるを認むる迄、藪簀を以て其上を覆ひ、而して降雨の時は過度の濕氣を防ぐ爲に硝子障子を架け、適宜に開閉し、又晴天の日は成るべく障

子を取りはづし、毎日土壤を検べ其乾きたるか濕りたるかに依りて如露にて水を灌ぎ、夫から苗が充分成育して強壯になりますれば、大氣と光線に觸れしめ、毎週一回油糟の良く腐つたる薄き水肥をやり、十一月に至り夜間降霜の害を防ぐ爲に硝子障子を架け、其上に覆をなし、日中は其を除き外氣を導き入る時は續々と芳香ある艶麗の花を開きます。

種類

「ニホヒスミレ」の種類は、人工媒助法に依りて以前より新種が澤山増加して、其中でも赤色堇「アドミラルアペラン」と云ふ新種も出来、夫のみならず香のある黄花種もあると云ふ事です、併し之等は唯珍らしき種類と云ふだけで、今世間普通に栽培せられて居るのは、左の種類であります。

スワンレー、ホワイト

白花の大輪八重咲にして尤も普通に人の賞美するものです。
マリールー、ウイス

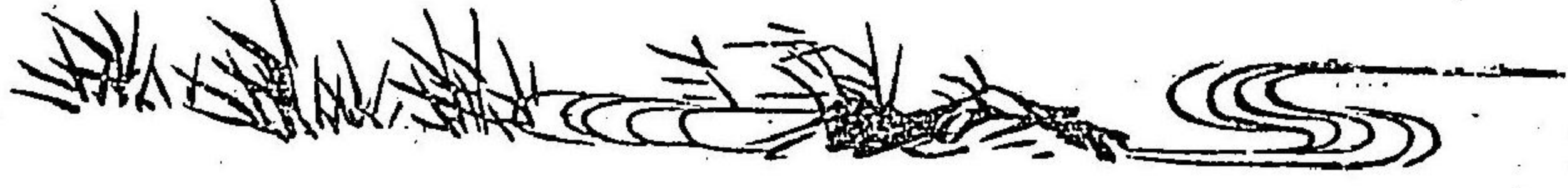
紫色の大輪八重咲にして米國に於て花屋の多く培養するもので最も高評を博してをります。

プリンス、ウエルス、

薄紫大輪の一重咲にして「ニホヒスミレ」を愛するものは此種を栽培せないものはありません。

ラフレレス、アドミラル

薄紫の一重咲にして最も名高く普通に人の賞美する處で花形は大きくして花の咲いてをる時長く且性質繁殖のも強くして芳香も宜しい。



白色一重咲

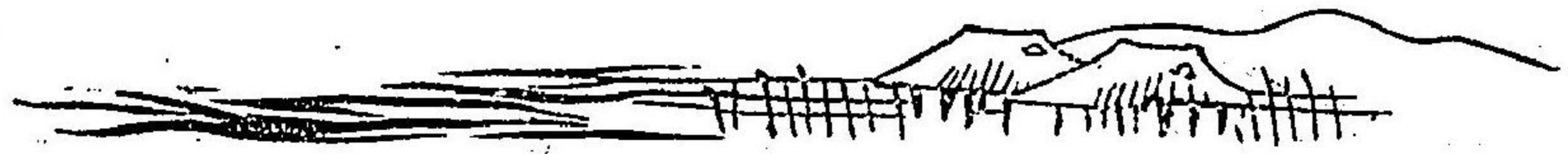
普通栽培せらるゝ者で其性質繁殖とも前種と同じですが、花は極めて小さく芳香も紫色の者に比べて少ないから種類の一つとして標本に採り置者はありますが、栽培する者ものは少くない。

一重絞り咲

近年米國より舶來せしものにて大に流行します。

スミレの砂糖漬

「スミレ」は其花に芳香あるによりて、歐米園藝界に珍重さるゝ事は皆さん御存のことなれども、又彼の地にありては之を砂糖漬となして子供さん方の食用にすること、恰て日本にて「レモンド」(砂糖漬菓子の名)を食する様です、そして此砂糖漬に用ゆる「スミレ」は伊太利國「バブルム」原産のものが最もよろしいと申します。



是は此地で産出のは花輪が極めて大きく、砂糖漬に適當して居るからだと云ます。

一 莖菜の葉と癌腫

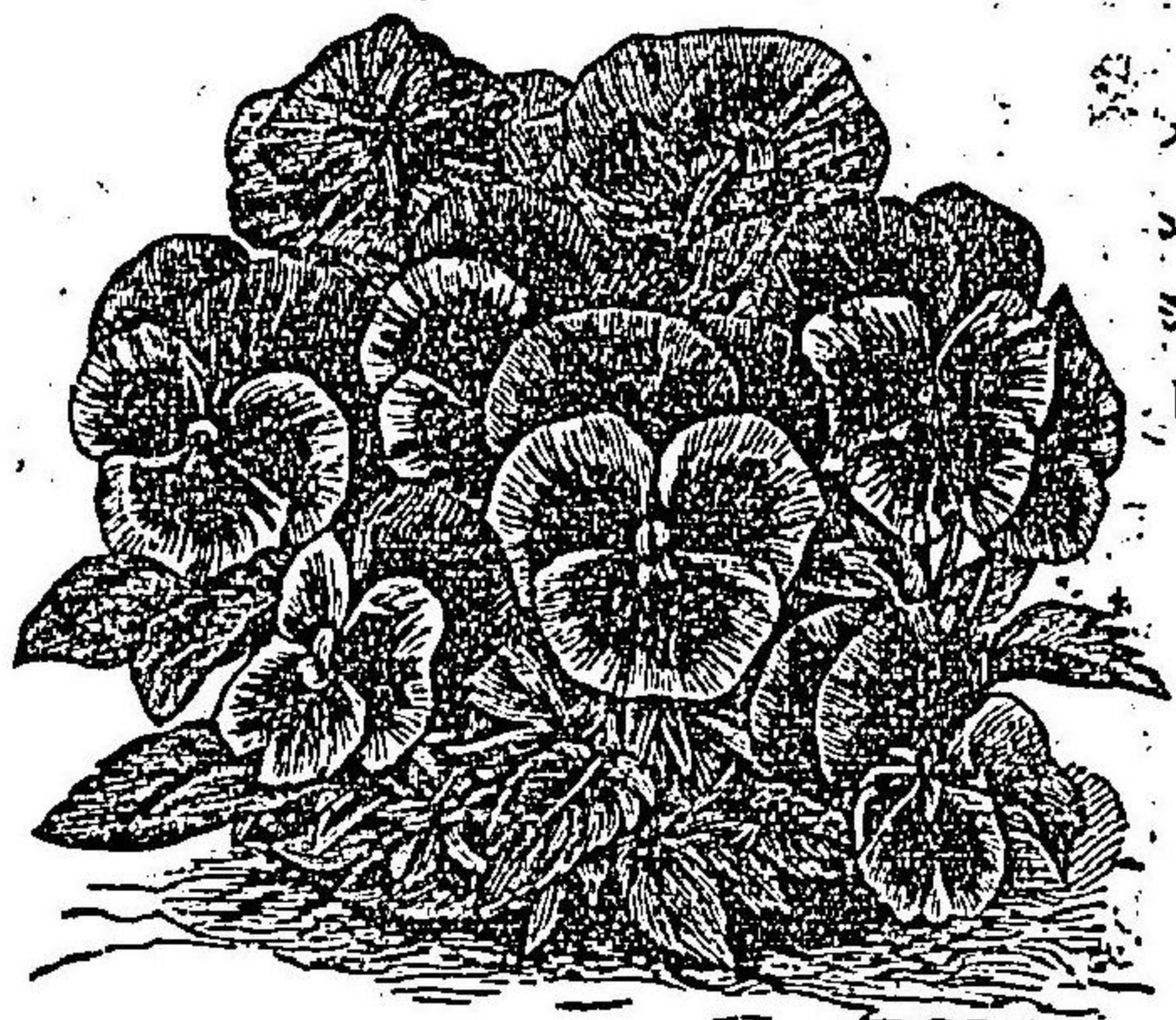
例の恐るべき不治の病命とりの癌腫の特効薬に就ては、是までも幾度か新発見のある毎に世間に發表しましたが、又夫について面白い報告を得ました、其は當時式部の大事がる莖菜の葉が癌腫に非常の効があると云ふこととて、若し其が實際であれば、今移莖菜はハイカラ連の愛顧を受けるのみでなく、大に藥屋さんや病人に歡迎さるゝ事になるのでありましやう、是を化學的に研究したのは、ウイッペル、ガットと云ふ人で、其結果其葉が癌腫の治薬となると云ふ事を初めて論じ、其藥學會で發表しました。同氏の専ら試験に供したのは、プリンセス、オフ、ウエールスと云

ふ名の莖菜の葉で、其分析の結果少しも揮發物を遊離しない事と、アルカロイドを見出さない事、グリユーロサイドの存在の確實なる事、及び其分量は生葉の重量の百分の五なる事等を知りました。パーミングハムの或醫者の報告に依と、癌腫に莖菜の葉の液汁を注射した所、其結果病氣を根治することは出来ぬか、患者は其が爲に非常に苦痛を軽減する事が出来るさうであります。

○ バンシー

「バンシー」はブリデンの原産にして英國では一名「ヒル、ツイース」即ち安心の花と申して居ます、吾邦にては「ミイロスミレ」又は「遊蝶花」或は「胡蝶スミレ」と申し濃艶なるを以て人に愛せられます、其色には黒、白、黄、紫、濃紫及び絞り等濃淡種々ありますが、普通のものは一願の花の中一瓣毎に紫、白、黄の三色を異にし、所謂「三色スミレ」と云

ふ名があるわけです、此花は人工にて種々變花を作る事が出来ま
す故、近頃舶來のものには花が美しく大きくして彩色の奇妙なる



Pansy

種々雑多のものがあつて、往々人を驚
すに至る者があります、西洋にては通
常花壇の裝飾用の目的を以て盛に栽
培り、花園を持ってある人は皆之を植な
い者はない程愛せられて居るさうで
す、香莖菜に比べて其性質稍高尚を欠
の感じはあります、れど氣品も亦必し
卑いと云ふ程ではありません、歐米人
の愛翫して渝ないのは蓋しこれが爲でありましやう。

一種蒔

種まきは冬を除くの外は、何時でも宜いけれども、最も適當の時
は秋彼岸頃又は春の彼岸頃に蒔のが宜うございます、而して之
を蒔には浅き箱又は平たき鉢の底に小石或は鉢のかけを入れ
そして其上は輕鬆肥たる土を盛り、表面を平にして夫に種を下
し、極く薄く土を掛るので、深く土を覆ば種を腐敗る恐れがあ
ります、發芽までは土の乾燥過ない様に、時々吸置の水を如露に
てかけ、雨のかゝらぬ場所におく時は容易に發芽します。

一 植換

種の已に芽發てから三葉か四葉も出た頃、他の浅き箱又は鉢或
は床蒔の者なれば同じ床又は他の床に適當に距離を一本づゝ
假植をなし、冬になり鉢植の者は其儘鉢の縁迄地中へ埋め、床植
の者は只其上に藁等を覆て霜防をするのみであります、上等

の種類は矢張温床に入れて保護しなければ最良のものは出来ません、但し此植物は光線に向つて屈曲ますから、一方から光線の来る場所に植ない様に注意のてず。
 夫から翌年の春になつて、假植した苗が漸々成長して各苗が互に葉先を交る様になつたらば、鉢又は花壇に本植を爲のてす、此本植を爲るときに元植つて居處の土をよく振ひ落し、そして新規の場所へ植のが肝要であります、なぜなれば「パンシー」は其根細くして先に植付てある所の土塊の滋養分は已に吸盡して植換の當座は、其根がまだ幹から遠く延ません、故に勢ひ根廻の土塊より肥料分を吸なければならぬのです、然るに先に植付てある土塊と共に移時は右の次第で能き生育をする事が出来ません、夫から三四月の頃高二三寸になり、花梗を出し一ツ花に黄紫

白、三色を交たる飛蝶の様な大形の花を開ますが、此植物は烈しい炎熱を嫌様です、成べく日中は蔭となる場所を撰ぶのが宜うござります、さうですけれども、樹や竹が其上を覆て蔭となるのは宜しくありません。

一 花壇

花壇を設へるに最宜しい場所は、正午の日光を受けずして少しく朝陽の照す所がよいです、之れ朝間の日光は、植物の色を害する程酷烈ありませんから、夫から花壇の場所が極りました時は表面の土を五六寸掘取り、之に砂壤土又は木葉の腐敗土に細き砂をよく調和ものを入れ、其に牛糞の腐朽ものを少許り混れば尙宜し、そして良く均した所へ、株間六七寸を離て植出せばよろしいのですが、日光の強くない所なれば何の土地でもよく生

長します。

又本植の時、水を灌る代に極く薄い水肥を施ますれば、大に効があります。盆栽肥料を薄して用れば尤も妙です。花を大きくしやうとするには、苗を織く長くせないうて、丈夫に育て、葉の色が深緑になる様に心掛るのです。不揃に生た苗は摘去がよろしい。

鉢植

鉢植として花を咲せ様とするには、初め植換の時に、勢のよい苗を撰んで、口径三寸又は四寸の鉢の植換へ前同様に寒の防をすると、四月上旬になり花梗が発生します。其頃之を今度は六七寸の鉢に肥土を以て移し植へ花蕾を現す様になりたれば、一週間に一度位極薄い水肥を施ときは、大に効能があります。

扞木

扞木をするに最も良時候は、夏の終り即ち秋の初が宜い。此頃は凡て植物の根を發するに丁度よい時節です。

其法は適當の鉢を探り、下底に小石又は鉢のかけを入れ、其上に細土と砂を當分に混たるのを充し、鉢を少し左右に動し表面を平坦にして、其に親株より切採たるものを扞し、如露にて少し水を灌け、日光の直射しない溫暖場所におき、乾燥様に注意しますれば容易に活着ます。そして扞條に根が生ますれば、來年の春花を咲しむる所に植出し又は鉢の儘屋下に置いて冬を凌すとよろしうございます。

注意

此「バンシー」はまゝ、蛭蟪の害を受けることがありますから、注意して驅除のです。又植たる場所は餘り乾燥き過ることなく、萎枯た

る莖葉は除去り、繁茂徒長たるものは莖を剪り或は結付け立たる莖は下にする様にいたし、度々腐熟たる水肥を施り又は表土を交換する時は、秋季に至る迄能く艶美なる花を見ることが出来ます。

一 變種作り方

「パンシー」の變種にして優等なるものは、實を結ぶ事が稀であります。故に花の咲て居る中は、絶ず水彩畫用の筆の様なもので、上等なる種類の花粉を採り、他の花へふりかけるのです。さうすると種々變りたる花が出来ます。

「パンシー」は栽培容易して變り花を作るともたやすく出来ます。から、園藝初歩の者殊に婦人や小供さん方の栽培には、尤も宜うござります。

一 種採

「パンシー」は花を開て後種子の成熟する時は、下に垂てる種莢が上の方に向つて裂開る用意をするものであります。其機を見て種莢を採ります。種莢が既に裂開れば、其中の種子は飛散して採取することが出来ません。種を採る後は、袋に入れ二三日日光にあて、然る後貯へおくのです。(完)

○新體詩

遊蝶花

山田野梅

姉妹よ下げ髪に

結びりホンのひらくと

附録 スミレの栽培

一夜夢より脱けいで、
春の光にあくがる、
胡蝶に似たる花なれば
息吹徐々にあたゝかに
花はなよらに打羽ぶき

花となりけむ花すみれ
あとなき魂よあつから
名もさながらの遊蝶花
吹きても見よや女の童
そよふく風に舞ひ出でむ。

家庭園藝 草花の栽培 終

明治四十四年六月二十日印刷
明治四十四年六月廿五日發行

正價金 參拾錢

家庭園藝

著作者 小川安村

不許複製



發行者 穴山篤太郎

草花の栽

印刷者 同 落合彌三

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
振替貯金東京六九六番
大阪市南區心齋橋筋一丁目
振替貯金大阪四三二番

有隣堂
文海堂

有隣堂發行特約販賣店

東京市丸善書店	同 林平書店	同 東京堂	同 若林書店	大 阪 市 柳原書店	同 三島商店	神 戶 市 日東館	播 磨 市 福井書店	但 馬 市 石田支店	長 岡 市 日島書店	上 野 市 盛廣堂	下 總 市 多田屋支店	水 戸 市 川又書店	宇 都 宮 市 内田書店	大 和 市 俊本商店	和 歌 山 市 高市書店	名 古 屋 市 川瀬書店	遠 江 市 谷島屋	甲 府 市 柳正堂	近 江 市 文泉堂	
長野市四澤書店	仙 臺 市 佐政書店	盛 岡 市 佐々木書店	同 玉山書店	同 今泉支店	青 森 市 今泉支店	陸 奥 市 兼子書店	山 形 市 五十嵐書店	秋 田 市 成見書店	福 井 市 品川書店	金 澤 市 宇都宮書店	加 賀 市 三谷書店	富 山 市 中田書店	伯 耆 市 德岡書店	松 江 市 有田書店	同 川岡書店	同 細謙舍	同 古谷商店	同 田中商店	植 村 市 植村書店	
周 防 市 白銀書店	同 小原書店	高 松 市 宮脇書店	同 向井書店	同 世其書店	高 知 市 澤本書店	同 福岡市	同 久留米市	同 豐後市	同 熊本市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市	同 日向市
石狩市三浦商店	札 幌 市 富貴堂	同 金田書店	同 吉田書店	同 木元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店	同 丸元書店

園藝書類

原田東太郎氏著	片山熊太郎氏著	東京博物館研究會編	久保田三葉氏編	同 氏 編	宮川紫外爾氏著	丸山晚霞氏著	鈴木千代吉氏著	印東熊兒氏著	富益農學士著	秋元秋雨氏著
○和洋四季草花培養法	○庭草花栽培法	○和洋四季草花培養圖解	○庭園藝之栞	○園藝十二ヶ月	○實園藝秘訣	○實園藝秘訣	○實用溫室園藝法	○西洋草花	○園藝一講話	○酒井伯園藝談
(全一册) 正價九十錢 送料八錢	(全一册) 同五十錢 同六錢	(全一册) 同八十五錢 同八錢	(全一册) 同 一圓 同八錢	(全一册) 同九十錢 同八錢	(全一册) 並製六十五錢 同八錢	(全一册) 同二圓 同十二錢	(全一册) 同二圓 同十二錢	(全一册) 同十五錢 同二錢	(全一册) 同十五錢 同二錢	(全一册) 同七十五錢 同八錢

富益農學士著 ○花の園藝 (全二冊) 正價十五錢 送料二錢
 同氏著 ○園藝行事 (全二冊) 同十五錢 同四錢
 鈴木千代吉氏著 ○萬花不時栽培法 (全一冊) 同 一圓六十五錢 同十二錢
 吉藤兩氏著 ○園事曆 (全一冊) 同二十錢 同二錢
 北村東紅氏著 ○娛樂花と庭曆 (全一冊) 同六十五錢 同六錢
 太田三郎氏著 ○草花繪物語 (全一冊) 同 一圓五十錢 同十二錢
 小川安村氏著 ○盆栽培養手引草 (全一冊) 同六錢 同二錢
 高木敏雄氏著 ○草木實驗盆栽仕立秘法 (全一冊) 同二十五錢 同四錢
 關歐仙史氏著 ○草木圖解盆栽培養全書 (全一冊) 同三十錢 同六錢
 中塚乘之助氏著 ○庭園植物いろは引 (全一冊) 同十五錢 同二錢
 農商務省編 ○露園萬國園藝博覽會視察報告 (全一冊) 同三十錢 同四錢

富益農學士著 ○外球根培養全書 (全一冊) 同七十錢 同八錢
 大石進氏著 ○久留米特産霧島躑躅栽培全書 (全一冊) 同十八錢 同二錢
 池久吉氏著 ○楓葉圖譜 (全一冊) 同三十五錢 同二錢
 野村買笑氏著 ○薔薇栽培法 (全一冊) 同二十五錢 同二錢
 柚木梶雄氏著 ○薔薇栽培法 (全一冊) 同二十五錢 同二錢
 千葉晚香氏著 ○菊花培養大觀 (全一冊) 同五十錢 同四錢
 天王寺植物試驗場編 ○秘法類聚菊花培養全書 (全一冊) 同五十錢 同六錢
 藤本紫苑氏著 ○田園小説野菊集 (全一冊) 同十五錢 同二錢
 種半園主著 ○菊の培養法 (全一冊) 同十五錢 同二錢
 高橋農學士著 ○朝顔之栽培 (全一冊) 同六十五錢 同六錢
 富田晚霞氏著 ○朝顔栽培法 (全一冊) 同二十五錢 同四錢

82
712

- | | | |
|---------|-----------------------------|-------------------|
| 重枝正樹氏編 | ○朝顔栽培秘法錄 | (全一册) 正價二十一錢 送料二錢 |
| 千葉晚香氏著 | ○朝顔及夜會草の栽培 | (全一册) 同四十錢 同四錢 |
| 水野勉氏著 | ○賞花百合栽培法 | (全一册) 同四十錢 同六錢 |
| 梅原寛重氏著 | ○梅樹栽培新書 | (全一册) 同十二錢 同二錢 |
| 千葉胤一氏編 | ○通俗園藝 ^{家必携} ダリーヤ通解 | (全一册) 同二十五錢 同二錢 |
| 青木農學士著 | ○賞園藝新書 | (全一册) 同一圓廿錢 同十二錢 |
| 宮川紫外氏著 | ○盛花と贈花 | (全一册) 同六十五錢 同六錢 |
| 篠崎信四郎氏著 | ○近植物採集法 | (全一册) 同八十五錢 同八錢 |

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
振替貯金東京六九六番

有隣堂

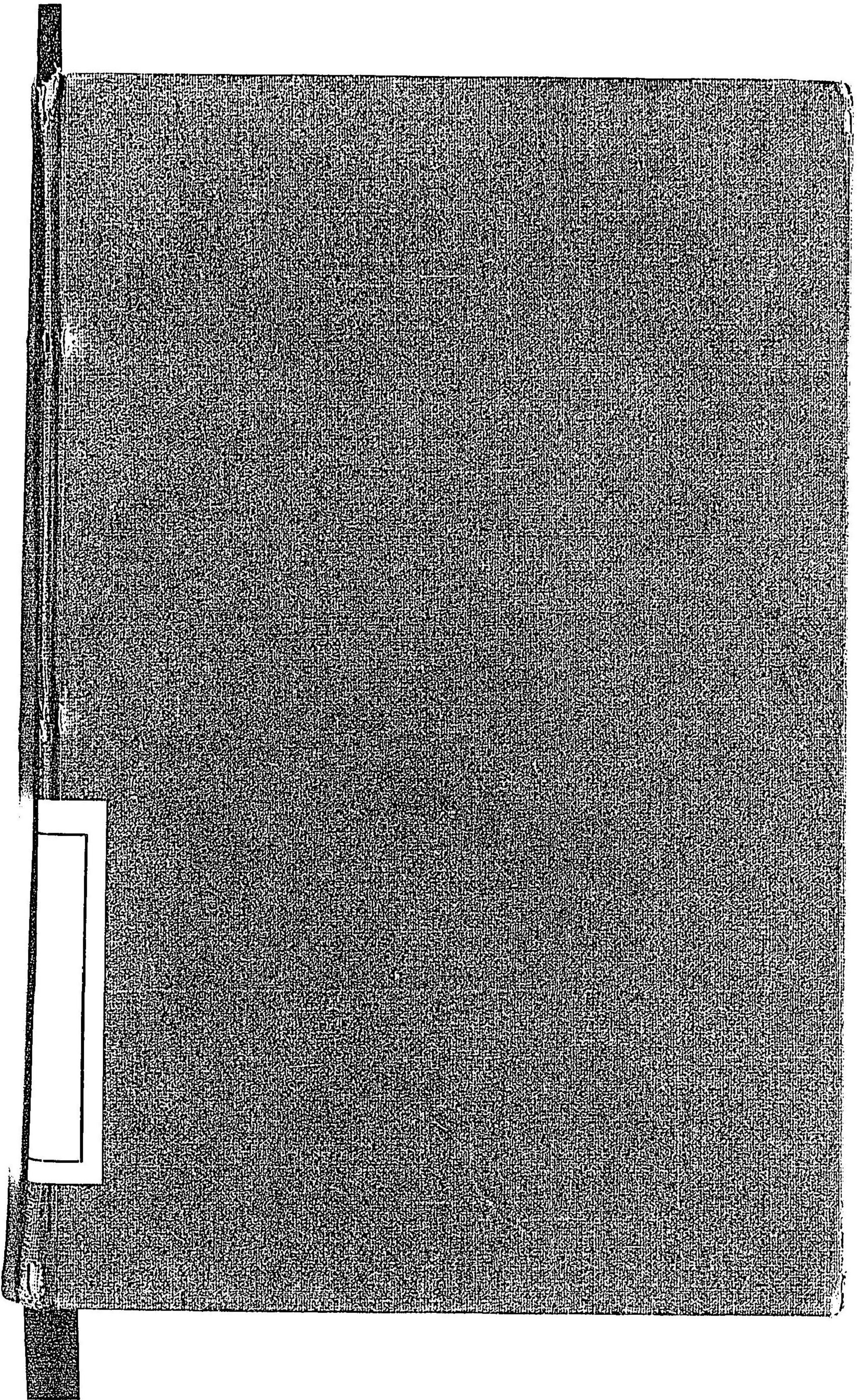
電話京橋一〇五五番

京 東

堂 隣 有

82

1712



82
712

063206-000-0

82-712

草花の栽培 (家庭園芸)

小川 安村/編

M44

CCB-0164

